

intra-mart WebPlatform/AppFramework

Version7.0

リリース・ノート

第 12 版 2015/07/03

1 はじめに

- (1) intra-mart WebPlatform/AppFramework が動作するには、Java-VM が必要です。
- (2) intra-mart WebPlatform/AppFramework の大部分は Java ベースで開発されています。そのため、Java-VM が動作するプラットフォームであればどこでも動作可能です。
- (3) intra-mart WebPlatform/AppFramework の各サーバ (Server Manager および Service Platform) および intra-mart Administrator が稼動するために必要な Java-VM は別途入手してください。
- (4) intra-mart WebPlatform/AppFramework の各サーバ (Server Manager および Service Platform) は、『検証済み環境』に記載されている環境において、動作確認をおこなっています。
- (5) intra-mart WebPlatform/AppFramework の各サーバ (Server Manager および Service Platform) を動作させるために必要なリソース (メモリ等) をインストール時に適切に設定する必要があります。なお、インストール後に設定を変更することもできますので、環境及び利用状況に合わせて適宜チューニングをおこなってください。
- (6) 本ドキュメントに記載されているシステム要件は、パフォーマンスを保証するものではありません。ハードウェア・オペレーションシステム・ミドルウェア・intra-mart WebPlatform/AppFramework 上に実装したシステム・利用状況等により、適切なチューニングが必要になります。詳細は、販売店までご相談下さい。
- (7) Web サーバおよびデータベース、その他のモジュール稼動に必要な稼働環境情報 (リソース等) につきましては、各製品 (各アプリケーション) のベンダにご確認ください。
- (8) 運用を行うには、データベースが必要です。
- (9) データベース接続をするために必要となる JDBC ドライバは各データベースベンダより提供されているものをご利用ください。

(10) 弊社の提供する各ドキュメントに『非推奨』という言葉がありますが、これは「サポートしません」という意味ではありません。サポートは致しますが、将来なくなる可能性があるため、新しい機能およびAPIを使うことを推奨するという意味で使用しております。

(11) 弊社の提供するドキュメントに記述の無い全ての事柄は、サポート対象外です。

(12) 本製品に関する最新の技術情報やパッチ情報は下記のサイトをご覧ください。

Developer Support site : <http://www.intra-mart.jp/developer/index.html>

(13) 本製品に関するドキュメントは、下記のサイトにおいて最新のドキュメントが公開されています。最新のドキュメントをご利用ください。

製品最新情報ダウンロードページ : <http://www.intra-mart.jp/download/product/index.html>

(14) 本製品には、以下によって開発されたソフトウェアが含まれています。

ソフトウェアのライセンスについては、各ライセンスシートをご参照ください。

OSS 製品	Version	licenses	URL
マスカット	2.2.0	ASL	http://maskat.sourceforge.jp/
Rhino	1.6R2	MPL	http://www.mozilla.org/rhino/
S2Container	2.4.25	ASL	http://s2container.seasar.org/2.4/ja/
S2Struts	1.3.0 RC5	ASL	http://s2struts.seasar.org/ja/
S2Dao	1.0.48	ASL	http://s2dao.seasar.org/ja/index.html
Apache Struts	1.3.8	ASL	http://struts.apache.org/
JavaMail	1.4.1	Sun	http://java.sun.com/products/javamail/
JAF	1.1.1	Sun	http://java.sun.com/javase/technologies/desktop/javabeans/jaf/index.jsp
Logback	0.9.9	LGPL	http://logback.qos.ch/
SLF4J	1.5.0	MIT	http://www.slf4j.org/
Apache Axis2	1.4	ASL	http://ws.apache.org/axis2/
The Yahoo! User Interface Library (YUI)	2.4.1	BSD	http://developer.yahoo.com/yui/
Prototype.js	1.6.0.1	MIT	http://www.prototypejs.org/
OpenPortal	1.0_01	CDDL	https://portlet-container.dev.java.net/
Xilinus Prototype Portal Class	1.1	MIT	http://xilinus.com/
script.aculo.us	1.8.1	MIT	http://script.aculo.us/
Apache POI	3.0.2	ASL	http://poi.apache.org/
Simple Java toolkit for JSON	-	LGPL	http://www.json.org/

Eclipse Platform	3.3.1.1	EPL	http://www.eclipse.org/
Eclipse Language Pack	–	EPL	http://www.igapyon.jp/blanco/blanco.ja.html
Netbeans Visual Library API	2.9.1	CDDL	http://www.netbeans.org/index.html
Netbeans Utilities API	7.10.1.1	CDDL	http://www.netbeans.org/index.html
JDOM	1.1	ASL	http://jdom.org/
iText	2.1.2	MPL	http://sourceforge.net/projects/itext/
iTextAsian	–	MPL	http://sourceforge.net/projects/itextpdf/
Mule(*1)	1.4.3	CPAL	http://www.mulesource.org/
Apache Commons Collections(*1)	3.2.1	ASL	http://commons.apache.org/collections/
Apache Commons Lang(*1)	2.4	ASL	http://commons.apache.org/lang/
Apache Commons Pool(*1)	1.3	ASL	http://commons.apache.org/pool/
OpenJPA(*1)	1.1.0	ASL	http://openjpa.apache.org/
Serp	1.14.2	BSD	http://serp.sourceforge.net/
Eclipse BIRT (*1)(*2)	2.2	EPL	http://www.eclipse.org/birt/phoenix/
JAXB(*1)(*2)	2.0.5	CDDL	https://jaxb.dev.java.net/

licenses	
ASL	Apache License, Version 2.0
BSD	Berkeley Software Distribution License
CDDL	Common Development and Distribution License Version 1.0
CPAL	Common Public Attribution License Version 1.0
EPL	Eclipse Public License – v 1.0
LGPL	GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1
MIT	MIT License
MPL	Mozilla Public License, version 1.1
Sun	Sun Microsystems, Inc. (“Sun”) SOFTWARE LICENSE AGREEMENT

*1 「エンタープライズ for BPM」 に含まれます。

*2 「エンタープライズ for BPM」 の「BPM|Designer」 に含まれます。

2 バージョンアップ内容

以下にこのバージョンで変更になった点を列挙します。

各機能の詳細に関しては各マニュアルまたはAPIリストを参照してください。また、各機能の設定方法に関しては、各マニュアルまたはインストールガイド等を参照してください。

2.1 基本機能

- (1) Web サービスを提供するための機能が追加されました。
 - ✧ intra-mart 上に構築された Web サービスに対する認証、および、認可の仕組みを提供します。
 - ✧ JavaEE 開発モデルおよびスクリプト開発モデルで、Web サービスおよび Web サービスクライアントを作成することが可能です。
- (2) ポータルモジュールを一新しました。
 - ✧ Portlet API 1.0 (JSR168)に対応しました。
 - ✧ ユーザポータルにアクセス権を設定し公開する機能が追加されました。これに伴い組織内ポータルは廃止されました。
 - ✧ ドラッグアンドドロップによる動的なレイアウト編集が可能になりました。これに伴いメニューからポータルは削除されました。
 - ✧ ポータルのサイズは表示領域に合わせて自動的にサイズ調整が行われるようになりました。これに伴いサイズ指定は廃止されました。
- (3) ログ出力機能を一新しました。
 - ✧ ログの種類ごとに設定ファイルを作成し、管理することが可能になりました。
 - ✧ ログにレベル(ERROR、WARN、INFO、DEBUG 等)を指定することが可能になりました。
 - ✧ ログローテイトの際にファイルを圧縮(zip、gz)することが可能になりました。
 - ✧ ログの出力先(コンソール、ファイルおよびメール)の選択が可能になりました。
 - ✧ ログ API が新規に追加されました。JavaEE 開発モデルおよびスクリプト開発モデルで利用可能です。
- (4) Seasar2 の HotDeploy の機能が、im-JavaEE framework で利用できるようになりました。HotDeploy 機能は開発時を想定した機能のため、運用環境では必ず無効にしてください。設定方法については以下のドキュメントを参照してください。
 - intra-mart WebPlatform Ver.7.0 セットアップガイド
 - intra-mart AppFramework Ver. 7.0 セットアップガイド
 - Seasar2 連携 プログラミングガイド
- (5) マスカット 2.0.0 に対応しました。
 - ✧ マスカットのバージョンアップ内容に関しては、次を参照ください。
http://sourceforge.jp/projects/maskat/document/maskat_2.0.0_-_Notes/
- (6) ログイン画面のデザインを変更しました。
- (7) BPM(Business Process Management)が追加されました(エンタープライズ for BPM)。
- (8) ESB Mule(Community 版)が追加されました(エンタープライズ for BPM)。

2.2 環境

- (1) Resin3.1に対応しました。
- (2) JBoss4.2.2.GA に対応しました。
- (3) 以下の OS に対応しました。
 - ✧ RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5
 - ✧ AIX 6.1
- (4) 以下のデータベースに対応しました。
 - ✧ Oracle 11g
 - ✧ IBM DB2 9.5
 - ✧ PostgreSQL 8.3

2.3 アクセスセキュリティ

- (1) ログイングループ管理者権限の委譲機能が追加されました(ログイングループ管理者を複数人で運用することが可能になりました)。
- (2) ログイン画面のヘッダ・フッタを任意に指定可能になりました。
- (3) メイン画面のトップバー内のロゴアイコンが任意に指定可能になりました。
- (4) 認証処理において、リクエストアナライザ・認証モジュール・ページプロバイダの各種モジュールが、複数設定できるようになりました。

2.4 ワークフローモジュール

- (1) ワークフローデザイナーを一新しました。
 - ✧ ルート情報のインポート・エクスポート機能が追加されました。
 - ✧ アンドゥ・リドゥ機能が追加されました。
 - ✧ タスクのコピー・ペースト機能が追加されました。
 - ✧ 注釈の配置が可能になりました。
 - ✧ スイムレーンの配置が可能になりました。
- (2) 申請者／承認者ルート作成ワークフローにおいて、管理者が初期値を設定できるようになりました。
- (3) 申請者／承認者ルート作成ワークフローにおいて、ユーザが承認ルート作成の履歴を管理できるようになりました。
- (4) 処理種別の使用の有無が選択できるようになりました。
- (5) 次タスクが実行時選択の場合に、組織から役職の絞込みが可能になりました。
- (6) ワークフロー標準の申請／承認画面を表示する API が追加されました。
 - スクリプト開発モデル
 - `<IMART type="switchLink">`
 - JavaEE 開発モデル
 - `<imart: switchLink>`

2.5 FormatCreator

- (1) 項目設定において、新規に配置した場合に項目 ID にユニークな ID が初期表示されるようになりました。
- (2) 設定項目 DB 参照(テキスト)において、テキスト幅が設定できるようになりました。
- (3) PDF 出力において、ページサイズが指定できるようになりました。

2.6 開発系

- (1) intra-mart JavaEE フレームワーク タグライブラリに、以下の API が追加されました。
 - JavaEE 開発モデル
 - `<imartj2ee: Format>`
 - `<imartj2ee: JSSPForm>`
 - `<imartj2ee: JSSPFrame>`
 - `<imartj2ee: JSSPLink>`
- (2) アプリケーション共通モジュール API に、以下の API が追加されました。
 - JavaEE 開発モデル
 - `jp.co.intra_mart.jssp.util.JavaScriptUtility`
- (3) アプリケーション共通モジュール API に、以下のグローバル関数が追加されました。
 - スクリプト開発モデル
 - `load()`
 - `getMessageDigest()`
- (4) 画面共通 IMART タグライブラリの以下の API が、name 属性のあるタグに変換できるようになりました。
 - スクリプト開発モデル
 - `<IMART type="tag">`

2.7 その他

- (1) FormatCreator が組み込まれました。(アドバンスト以上)
- (2) intra-mart WebPlatform/AppFramework スタンダードは、ワークフローモジュールを含みません。ワークフローモジュールを使用する場合は、アドバンスト以上が必要です。
- (3) intra-mart WebPlatform/AppFramework スタンダードは、FormatCreator を含みません。FormatCreator を使用する場合は、アドバンスト以上が必要です。
- (4) ログメッセージをデータベースに保存する機能は廃止されました。
- (5) intra-mart WebPlatform/AppFramework から、以下の API は廃止されました。

- スクリプト開発モデル

- RCV オブジェクト

本 API は、下記のサイトから入手し、製品に追加することで使用することが可能です。

<http://www.intra-mart.jp/download/product/index.html>

「 intra-mart WebPlatform / intra-mart AppFramework Ver.7.0 」を選択し、
“RCV オブジェクトモジュール(スクリプト開発モデル API) “(im_cipher_rc5.zip) より、
本 API を入手ください。

- (6) 以下の環境がサポート環境から廃止されました。

- JDK

- JDK 1.4.2

- OS

- Windows2000

- Solaris9

- Redhat Linux Advanced Server3/4

- AIX 5.2/5.3

- Web サーバ

- Apache2.0.x

- アプリケーションサーバ

- IBM WebSphere Application Server 6.0

- BEA WebLogic Server 8.1J

- BEA WebLogic Server 9.2J

- データベース

- Oracle9i

- IBM DB2 UDB 8.2

- IBM DB2 UDB 9

- Microsoft SQL Server 2000

- PostgreSQL 8.0

- PostgreSQL 8.1

- PostgreSQL 8.2

- ブラウザ

- Netscape 7.1

3 パッケージ毎の機能一覧

本製品は、パッケージの種類により使える機能が異なります。

ご購入いただいたライセンスをご確認の上、下表をご覧ください。

なお、表に掲載されていない機能に関しては、すべてのパッケージでご利用可能となっております。

機能	スタンダード	アドバンス	エンタープライズ
im-BizAPI	○	○	○
アクセスセキュリティ機能	○	○	○
ポータル機能	○	○	○
スクリプト開発モデルによるアプリケーション構築	○	○	○
JavaEE 開発モデルによるアプリケーション構築	○	○	○
EJB サーバ機能(※1)	○	○	○
ワークフロー機能		○	○
FormatCreator		○	○
BPM 機能			○
ESB 機能			○

※1 EJB サーバ機能は、WebPlatform (Resin) のみの機能になります。また、WebPlatform (JBoss) / AppFramework をご利用の場合は、Web アプリケーションサーバが提供する機能になります。

機能	WebPlatform	AppFramework
intra-mart Administrator	○	○
Windows 環境でのサービス化(※1)	○	○
スタンドアロン型サーバ	○	○
ネットワークサーバ型による分散システム構築	○	○
intra-mart HTTP Server 機能(※2)	○	
市販の Web サーバ製品を利用するための WebServerConnector (※2)	○	
EJB サーバ機能(※3)	○	

※1 AppFramework の場合は、ご利用の Web アプリケーションサーバの機能になります。

※2 WebPlatform (Resin) のみの機能になります。

※3 EJB コンテナを実行できるのは、Application-Runtime の動作している Service-Platform のみです。

4 対応規格一覧

本製品に含まれる各機能は、以下の規格に準拠しています。

機能	対応規格
HTML(※1)	4.01
JavaScript(Server Side)	1.6
Java EE	1.4
メール送信機能	SMTP(RFC821,2045-2049)
Document Object Model	Level2
Portal	Portlet API 1.0 (JSR168)
RSS(※2)	1.0, 2.0
BPEL	2.0
BPMN	1.1

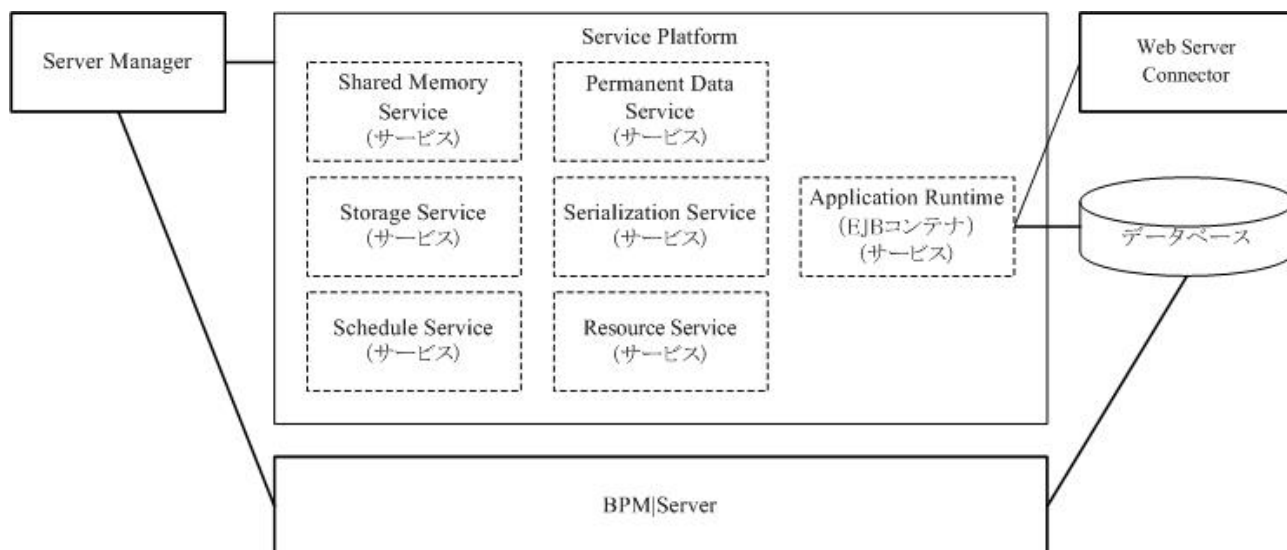
※1 HTML の対応規格は、本製品の各画面が準拠している規格を意味しています。
本製品が実装を提供する規格ではありません。

※2 RSS はポータル機能に含まれる RSS 接続ポートレットが対応している規格です。
RSS 規格に準拠して情報公開する機能は、本製品に含まれていません。

5 システム要件

intra-mart WebPlatform および intra-mart AppFramework は、単一のサーバによるスタンドアロン型のみでなく、複数のサーバによる分散環境のシステム構築をすることができます。各サーバには自由にサービスを割り当てることができ、すべてのサービスが連携することにより、システムとして様々な機能を実現します。

以下は、稼働環境の一例です(スタンドアロン型の場合(BPM|Server を除く)は、1台のハードウェア(サーバ)による運用となります)。



※1 AppFramework の場合は、EJB コンテナ (EJB サーバ) はご利用の Web アプリケーションサーバの機能になります。

※2 WebServerConnector は、WebPlatform (Resin)のみとなります。

※3 BPM|Server は、エンタープライズ for BPM のみとなります。

5.1 サーバ要件

各 OS 別のシステム要件を記載します。

なお、記載内容は目安であり、サーバの運用状況により常に一定のパフォーマンスを発揮できるとは限りません。

5.1.1 WebPlatform/AppFramework (BPM|Server を除く)

OS	Windows 2000 Professional(※) Windows XP Professional(※) Windows 7 Professional(※), Ultimate(※) Windows Server 2003 (SP2 以上を推奨) RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5 Solaris 10 HP-UX11i v3 AIX 6.1	
ハードウェア	Windows	PC/AT 互換機 (CPU の動作クロックが 1GHz 以上を推奨)
	Solaris	Solaris の稼動可能な Sparc アーキテクチャマシン機種 (Ultra Sparc II 650MHz 以上を推奨)
	Linux	Redhat Linux の稼動可能な PC (CPU の動作クロックが 1GHz 以上を推奨)
	HP	HP-UX11i の稼動可能な PC (CPU の動作クロックが 1GHz 以上を推奨)
	AIX	AIX の稼動可能な PC (CPU の動作クロックが 1GHz 以上を推奨)
メモリ	256MB 以上の RAM (OS やその他のソフトウェアが動作するために必要なメモリが別途必要です) 512MB 以上を推奨 ※注意 作成されるアプリケーションで多くのメモリを必要とする処理を想定されている場合や、想定ユーザー数等が多い場合は、より多くのメモリを必要とします。この点を御考慮いただき必要となるメモリ容量を御算出下さい。	
ハードディスク	200MB (intra-mart WebPlatform/AppFramework のみ) ※注意 実行するシステムの規模や登録データ量により運用時に必要なハードディスク容量は変化します。また、Storage Service および Permanent-Data Service は、管理するデータ量に比例してハードディスク容量を必要とします。ログ機能の利用や長期間の運用も考慮し、十分な空き容量を確保してください。	
ソフトウェア	環境要件を参照してください。	

※ DebugServer のみ、ご利用頂けます。

5.1.2 BPM|Server

OS	Windows Server 2003 (SP2 以上を推奨) RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5 Solaris 10 HP-UX11i v3 AIX 6.1
推奨環境	Windows Server 2003 (SP2) の場合 ・Dual Xeon @ 2.8GHz ・2G RAM ・1GB HDD

5.1.3 BPM|Designer

OS	Windows XP Professional (SP2 以上を推奨)
推奨環境	Windows XP Professional (SP2) <ul style="list-style-type: none"> •Dual Xeon @ 2.8GHz •1G RAM •1GB HDD

5.2 環境要件

intra-mart WebPlatform/AppFramework は次の環境をサポートしています。

5.2.1 Java-VM

Java-VM
Java 2 Platform Standard Edition Development Kit 5.0 および、同等の機能を有する Java-VM (現状、IBM 社製の Java-VM は、問題があり、推奨できません。詳細は、「7 これまでに判明している問題」をご参照ください。)

5.2.2 サーバ (Server Manager および Service Platform)

OS
Windows Server 2003 SP2
RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5
Solaris 10
HP-UX11i v3
AIX 6.1
(現状、IBM 社製の Java-VM は、問題があり、推奨できません。 詳細は、「7 これまでに判明している問題」をご参照ください。)

5.2.3 Application Runtime (アプリケーションプログラムの実行エンジン)

サーバ製品		OS
WebPlatform	Resin 3.1	Windows Server 2003 SP2 RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5 Solaris 10 HP-UX11i v3 AIX 6.1
	JBoss 4.2.2.GA	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5
AppFramework	IBM WebSphere Application Server 6.1	※メーカーが公表している製品のプラットフォームをご確認ください。
	BEA WebLogic Server 10J	

5.2.4 データベース

RDBMS 製品
Oracle Database 10g Release 2
Oracle Database 11g Release 1
IBM DB2 9.5
Microsoft SQL Server 2005 SP2
PostgreSQL 8.3

※ 各 RDBMS 製品の対応OSは、メーカーが公表しているプラットフォームをご確認ください。

5.2.5 Web Server Connector (WebPlatform(Resin)のみ)

WebServerConnector は Java ベースではなく、環境に依存した実行可能形式ファイルでの運用となります。

ご利用になられる実行環境に合わせてソースファイルをコンパイルしてご利用ください(弊社においては、下記表に示す環境での動作をサポートします)。

OS	Web サーバ製品	接続形態
Windows Server 2003 (SP2 以上を推奨) (※1)	IIS6.0	ISAPI
	Apache2.2.x (DSO サポート版)	組み込みモジュール(mod)
RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	Apache2.2.x (DSO サポート版)	組み込みモジュール(mod)
Solaris 10	Apache2.2.x (DSO サポート版)	組み込みモジュール(mod)

※1 コンパイル済みのファイルが提供されています

5.2.6 BPM|Server

OS	サーバ製品	RDBMS 製品
Windows Server 2003 SP2 RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5 Solaris 10 HP-UX11i v3 AIX 6.1	Resin 3.1	Oracle Database 10g Release 2 Derby 10.3.3.0(※)

※運用環境ではご利用いただけません。検証(開発)時のみとなります。

5.2.7 intra-mart Administrator および外部ソフトウェア接続モジュール (intra-mart が提供する独自 API)

Sun JRE 1.5.0 相当の環境に対応しています。

ただし、intra-mart Administrator はウインドウを有する対話型インターフェースとなっていますので、ウインドウを表示できる環境に限られます。

5.3 クライアント要件

クライアントとして対応する主なユーザインタフェースは Web ブラウザです。

なお、製品標準の画面を利用せずに独自のアプリケーションを構築した場合は、この限りではありません(ただし、一部機能にブラウザの制限を受けるものがあります)。

ブラウザ	OS
Microsoft Internet Explorer 6 SP1	Windows 2000
Microsoft Internet Explorer 6 SP2	Windows XP
Microsoft Internet Explorer 7	Windows XP Windows Vista
Microsoft Internet Explorer 8	Windows XP Windows Vista Windows 7
Firefox 3.0	Windows XP Windows Vista

下記の画面は、**Flash Player9 以降**が必要です。

- システム管理者 (/system.admin) 用のメンテナンス画面 (一部を除く)
- ログイングループ管理者 (/login-group-id.manager) 用のメンテナンス画面 (一部を除く)
- 商品マスタ
- richtextarea タグ
- ViewCreator

下記の画面は、**Java Plug-in 1.5.0(Sun JRE1.5.0)**以上が必要です。

- [ワークフロー]-[マスタメンテナンス]-[プロセス定義]のフロー編集画面

下記の画面は、**SVG Viewer 3.0** が必要です。

- [BPM]-[管理]からの「Process Details」および「Instance Details」画面の Diagram タブ

次の条件を満たす携帯電話にも対応しています。

- NTT DoCoMo(FOMA) / au(WAP2.0) / SoftBank(3GC 型)対応機種
- XHTML 対応機種

5.4 その他の要件

特殊な用途として利用される一部のモジュールは上記とは別に下記要件となります。

モジュール	対応環境
Windows 用サービス化プログラム	Windows Server 2003
外部ソフトウェア接続モジュール	JRE1.5.0

5.5 検証済み環境

以下、弊社動作検証済み(推奨)の intra-mart 製品と他社ミドルウェア製品との組み合わせを記します。弊社では以下の環境をサポートしますが、intra-mart 製品以外(OS、JDK、DB、Mail サーバ等)に起因する問題が発生した場合は保証致しかねます。

5.5.1 Service Platform および Server Manager

サーバ OS	ミドルウェア
Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)	Sun Windows x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15
RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	Sun Linux x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15
Solaris 10	Sun Solaris x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15
HP_UX11i v3	HP-UX JDK for the Java 2 Standard Edition platform バージョン 5.0.11
AIX 6.1	IBM 32-bit SDK for AIX, Java 2 Technology Edition, V5.0 SR6b

(現状、IBM 社製の Java-VM は、問題があり、推奨できません。

詳細は、「7 これまでに判明している問題」をご参照ください。)

※ intra-mart AppFramework の場合、ApplicationRuntime の動作する環境は、Web アプリケーションサーバ製品の仕様に依存します。

5.5.2 Web Server Connector (WebPlatform(Resin)のみ)

サーバ OS	ミドルウェア
Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)	IIS6.0 (※)
RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	Apache2.2.8 (DSO サポート版)

※ IIS 6.0 は、32 ビット モードで動作確認を行っています。

※ IWP7.0.8 で resin 3.1.12 に更新しました。resin 3.1.12 の WebServerConnector は、Windows Server 2003 では動作しません。resin 3.1.9 の WebServerConnector を利用してください。

5.5.3 Application Runtime

intra-mart 製品	Web Application サーバ
intra-mart WebPlatform	Resin 3.1.6
	JBoss Application Server 4.2.2.GA
Intra-mart AppFramework	IBM WebSphere Application Server Ver.6.1.0.15
	BEA Weblogic Server 10.0J

5.5.4 データベース

データベース	サーバOS	接続方法	接続に必要なソフトウェア
Oracle Database 11g Release 1	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	JDBC (Type4 非XA)	Oracle JDBC Driver 11.1.0 (11g) WebLogic Type 4 JDBC ドライバ(intra-mart AppFramework + WebLogicの場合のみ)
Microsoft SQL Server 2005 SP2	Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)	JDBC (Type4 非XA)	Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver 1.2
IBM DB2 9.5	Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)	JDBC (Type4 非XA)	DB2 JDBC Driver (IBM DB2 9.5に付属) Type4
PostgreSQL 8.3	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	JDBC (Type4 非XA)	postgresql-8.3-603.jdbc3

※ PostgreSQL8.3 は、Unicode でのみ検証しています。PostgreSQL8.3 が他の文字エンコーディングの場合、文字化けが発生し易い事が確認されています。

5.5.5 検証環境

No	Web/Application サーバ	サーバ OS	JDK	データベース	サーバ OS
1	intra-mart WebPlatform (Resin)	Solaris10	Solaris x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15	Oracle Database 11g Release 1	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5
2	intra-mart WebPlatform (JBoss)	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	Linux x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15	PostgreSQL 8.3	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5
3	IIS6.0 (WebServer Connector) + intra-mart WebPlatform (Resin)	Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)	Windows x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15	Microsoft SQL Server 2005 SP2	Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)
4	IBM WebSphere Application Server Ver.6.1	AIX 6.1	IBM 32-bit SDK for AIX, Java 2 Technology Edition, V5.0 SR6b	IBM DB2 9.5	Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)
5	BEA Weblogic Server 10J	HP_UX11i v3	HP-UX JDK for the Java 2 Standard Edition platform バージョン 5.0.11	Oracle Database 11g Release 1	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5
6	Apache2.2.8 (WebServer Connector) + intra-mart WebPlatform (Resin)	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	Linux x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15	Oracle Database 11g Release 1	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5

No	BPM Server	サーバ OS	JDK	データベース
1	BPM Server (Resin)	Solaris10	Solaris x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15	Oracle Database 10g Release 2
2	BPM Server (Resin)	RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5	Linux x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15	Oracle Database 10g Release 2
3	BPM Server (Resin)	Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)	Windows x64 Platform - Java Development Kit 5.0 Update 15	Oracle Database 10g Release 2
4	BPM Server (Resin)	AIX 6.1	IBM 32-bit SDK for AIX, Java 2 Technology Edition, V5.0 SR6b	Oracle Database 10g Release 2
5	BPM Server (Resin)	HP_UX11i v3	HP-UX JDK for the Java 2 Standard Edition platform バージョン 5.0.11	Oracle Database 10g Release 2

(現状、IBM 社製の Java-VM は問題があり、推奨できません。詳細は、「7 これまでに判明している問題」をご参照ください。)

5.5.6 クライアント

クライアントに関しては、下記の環境にて動作が確認されています(動作検証済バージョンのブラウザを推奨します)。

- Windows2000 + Microsoft Internet Explorer 6.0(SP1)
- WindowsXP + Microsoft Internet Explorer 6.0(SP2)
- WindowsXP + Microsoft Internet Explorer 7.0
- WindowsVista + Microsoft Internet Explorer 7.0
- WindowsXP + Firefox 3.0
- WindowsVista + Firefox 3.0

なお、ワークフローのフロー編集画面については、下記環境にて動作が確認されています。

- Windows2000 + Microsoft Internet Explorer 6.0(SP1) + Java Plug-in 1.5.0_15
- WindowsXP + Microsoft Internet Explorer 6.0(SP2) + Java Plug-in 1.5.0_15
- WindowsXP + Microsoft Internet Explorer 7.0 + Java Plug-in 1.6.0_06
- WindowsVista + Microsoft Internet Explorer 7.0 + Java Plug-in 1.6.0_06
- WindowsXP + Firefox 3.0 + Java Plug-in 1.6.0_06
- WindowsVista + Firefox 3.0 + Java Plug-in 1.6.0_06

また、以下の携帯電話にて動作が確認されています。

- NTT DoCoMo P703i μ
- au W51P
- SoftBank 902SH

5.5.7 アクセスセキュリティ認証用 LDAP サーバ

- Sun Java System Directory Server 5.2
- Microsoft Windows Server 2003 Active Directory

6 制限事項

6.1 共通

- (1) 本製品で提供される intra-mart WebPlatform／intra-mart AppFramework のデータベース構成はバージョンアップおよびリビジョンアップ時に予告なく変更される場合があります。以下の点の、ご注意ください。
 - データベース定義のフィールドサイズを小さくすると、動作不良の原因となります。
 - データベース構造を変更した場合は、バージョン(リビジョン)アップ時のデータ移行が困難になる場合があります。
 - データベース構造に依存したコーディングを行うとバージョン(リビジョン)アップ時にソースコードの互換性を保てない場合があります。データの入出力は、製品の API をご利用ください(アプリケーション共通マスタの検索は、この限りではありません)。
 - バージョン(リビジョン)アップやパッチでは、ソースファイルの追加／更新が行われます。カスタマイズしたソースは、他のプログラムとの連携において互換性が損なわれる可能性がありますので、十分にご注意ください。
- (2) 本製品が動作する環境において、他のソフトウェア等をインストールした場合に、DLL 等のバージョンにより障害が発生する場合があります。
- (3) 文字エンコーディングやファイルアクセスに関しては OS その他の影響を受けることがあります。
- (4) いかなる場合も、半角かな文字は使用できません。
- (5) いかなる場合も、外字は使用できません。
- (6) intra-mart HTTP Server 機能は、intra-mart WebPlatform (Resin) の機能です。intra-mart WebPlatform (JBoss) および intra-mart AppFramework ではご利用いただけません。
- (7) intra-mart WebPlatform (Resin) が持つ intra-mart HTTP Server 機能は、intra-mart WebPlatform を動かすための簡易 HTTP サーバです。そのため、SSL や CGI など他の HTTP サーバと同等の機能はありません。
- (8) WebServerConnector は、intra-mart WebPlatform (Resin) の機能です。intra-mart WebPlatform (JBoss) および intra-mart AppFramework ではご利用いただけません。
- (9) intra-mart Administrator による Service Platform または Application Server の起動および停止機能は、intra-mart WebPlatform (Resin) の機能です。intra-mart WebPlatform (JBoss) および intra-mart AppFramework ではご利用いただけません。
- (10) ApplicationRuntime の停止時に、ServerManager 側にエラーが発生する事がありますが、動作上問題ありません。
- (11) Unicode とその他文字コードの変換の違いにより、Flash で作成された画面および<IMART type="jspRpc">で作成された画面と、それ以外の画面の間でデータ検索を行った場合に失敗や文字化け等が発生する場合があります。
- (12) ショートカットアクセス機能を使用し、intra-mart の画面からショートカットアクセスの URL を開いた場合に、呼出し元(ショートカットアクセスの URL が表示されている画面)画面はセッションエラーになります。
- (13) 「グループ管理者」がアカウント設定画面にて行った変更は、ログイン中のユーザにすぐに反映されません(ユーザの再ログイン時に反映されます)。例えば、任意のユーザでログインをした後、別ブラウザにて「グループ管理者」でログインをして、任意のユーザの有効期限を無効の日付に変更しても、任意のユーザは、メニューからページに遷移して、各処理を行うことができます。
- (14) アカウントとロールの関連付け情報は、他のストレージに移動すると一部の機能が正常に動作しなくなります。アクセスセキュリティのコンポーネントを独自実装した場合、標準実装も残してデータベースにもデータが保存されるようにしてください(データの同期には十分に注意が必要です)。

- (15) intra-mart WebPlatform および intra-mart AppFramework の管理するメッセージは、システム共通となります。(メッセージデータは、properties ファイルで管理する方式です。properties ファイルは ServerManager におくことで一元管理されます。ログイングループごとに表示メッセージを切り替えられませんので、例えば「データの登録に失敗しました。」というメッセージを、ログイングループ A では「情報の登録に失敗しました。」、ログイングループでは「データ登録にミスしました。」などを変更することができません。メッセージ ID をログイングループ毎にわけなどの工夫が必要です。)
- (16) スクリプト開発モデルのソースでプログラムの更新が反映されない場合、ApplicationRuntime を再起動してください。ApplicationRuntime サーバを再起動しても反映されない場合は、work/jssp ディレクトリを削除して ApplicationRuntime を再起動してください。それでもソースの更新が反映されない場合は、ファイルの配置に問題がある可能性があります。ファイルの配置を見直してください。
- (17) ApplicationRuntime において、Java プログラムの自動コンパイル機能を有効にしている環境で ApplicationRuntime の自動再起動が頻繁に発生すると、ApplicationRuntime の動作が不安定になる場合があります。その場合、ApplicationRuntime を再起動してください。
- (18) ApplicationRuntime 起動後の初回アクセス時にサーバの初期化を行います。これには数分かかることがあります。また、JSP 等は初回アクセス時にコンパイルなどの処理が行われるため、レスポンスに数分かかることがあります。
- (19) データベースや Permanent-data Service に登録しているデータ量に比例して、各機能(API や画面)のパフォーマンスが低下します。
- (20) **Permanent-Data Service** はデータ保存要求を受け付けてから、ファイル出力遅延時間が経過した後にデータファイルを作成します。データ保存行為を実行してから遅延時間が経過する前に **Permanent-Data Service** を停止した場合、データがファイルに書き込まれずに次の起動時に反映されません。**Permanent-Data Service** は、以下のいずれかの方法で停止するようにして下さい。
- intra-mart Administrator の『停止』ボタンで停止
 - Application-Runtime の動作しているすべてのプロセスを停止(StandAlone の場合は、Web の要求に対する処理およびバッチプログラムがすべて終了)後に十分な時間が経過してから停止
- (21) インストール後の初期状態では、commons-logging、および log4j を利用したログ出力は、SLF4J、Logback 経由で出力されます。commons-logging、および、log4j を利用する場合は、log4j.properties や log4j.xml で行っていた設定を、logback 設定ファイルで行う必要があります。
- (22) log4j 専用の appenders, filters、および PropertyConfigurator を動作させるためには、SLF4J ブリッジ・ライブラリの利用を中止する必要があります。
- (23) intra-mart Administrator のログ閲覧機能は、ServerManager と各 ServicePlatform インストールディレクト配下の /log ディレクトリに存在するログファイルが対象です。

6.2 環境

- (1) Web サーバに IIS を利用している環境で、StorageService 上に保存されている 0 キロバイトのファイルをダウンロードすることはできません。
- (2) StorageService を WindowsOS のサーバにインストールして使用する場合、ユーザ ID やログイングループ ID を大文字／小文字の区別をして登録すると、以下のような不具合が発生する場合があります
- ✧ intra-mart WebPlatform／intra-mart AppFramework およびスタートパック等のアプリケーションなどの intra-mart パッケージでは、メールの添付ファイルなどをファイルへ保存する際、ファイル名、フォルダ名にユーザ ID やログイングループ ID を使用する場合があります。そのため、ユーザ ID やログイングループ ID を大文字／小文字の区別をして登録すると、違うユーザの情報が同じファイルに出力されてしまいます。(WindowsOS のファイルシステムでは、ファイル／フォルダ名の大文字小文字を区別しないため)
 - 例) ユーザ ID を「master」と「MASTER」などとして区別している場合、master のメール添付ファイルの内容と、MASTER のメール添付ファイルの内容は、同じファイルに書き込まれます。
- (3) WindowsOS を使用し、intra-mart の各サーバをサービス化して運用した場合、OS からのログアウトすることによりサーバプロセスが停止してしまいます。以下のような設定で回避することが可能です。

✧ intra-mart Administrator を使い、各サーバの JAVA オプション設定に『-Xrs』を追加してください（設定ファイル conf/imart.xml を開いて、サーバ毎の JAVA オプション設定(<java>タグの<option>タグ内)に『-Xrs』を追加していただいても結構です）。

- (4) UNIX 系 OS で運用する場合は、言語の環境変数を日本語に合わせてください。日本語に合わせないと各画面表示が文字化けします（初回表示時に、以下のようなエラーになることがありますが、数回表示を繰り返すと正しく表示されるようになります）。

システム処理エラーが発生しました。

EUCJP-OPEN

jp.co.intra_mart.framework.system.exception.SystemException: EUCJP-OPEN

- (5) HP-UX11i を使用する場合は、OS がポート番号「49152」を使用してしまうため、Server Manager (Standalone 型時も含む) をインストールした場合にネットワークのポート設定が衝突してサーバが起動できないことがあります。インストール時のポート番号設定には十分注意してください。

- (6) HP-UX11i でサーバ運用中にエラー「Java.lang.OutOfMemoryError: unable to create new native thread」が発生する事があります。カーネルパラメータ「max_thread_proc」の設定値を大きくする事で、エラーの発生を防止できる可能性があります。設定値は、利用状況や環境により異なります。

- (7) データベースに Oracle を使用し、標準でインストールを行うとポート番号「8080」を使用してしまうため、Application Runtime (Standalone 型時も含む) を同じコンピュータにインストールした場合にネットワークのポート設定が衝突してサーバが起動できないことがあります。インストール時のポート番号設定には十分注意してください。

- (8) 分散環境にインストールする場合、次の点に注意してください。

- インストールするコンピュータは全て、時計(コンピュータのシステム時計)を合わせて下さい。時計が大幅に違っていたり、コンピュータごとにシステム時間が違っていると、アプリケーションおよび各サーバプロセスが正常に動作することができません。
- 全てのサーバプロセスについて、Java-VM のバージョン(およびリビジョン)を同一にする事を推奨します。
- 全てのサーバプロセスについて、単一のベンダから提供されている Java-VM の利用を推奨します。

- (9) 分散構成環境においてハードウェア障害(ネットワークの物理層切断など)が発生した場合は、そのハードウェアを復旧させる前に、そのハードウェア上の intra-mart プロセスを停止して下さい(intra-mart プロセスが動作していた場合)。

- (10) 分散構成環境においてアプリケーションロック機能を利用した場合、設定値と運用状況によりシステムがデッドロック状態となりレスポンスが極端に低下してしまうことがあります。Application Runtime のネットワークコネクションのプール設定値(intra-mart/platform/network/client/connection)をアプリケーションロックに使用しているロック ID の総数より大きな値にしてください。また、Serialization Service の同時実行スレッド数(intra-mart/platform/network/server/threads)は、各 Application Runtime のネットワークコネクションプール設定値の合計以上の値にしてください(設定は、各 Service Platform の設定ファイル conf/imart.xml に記述されています)。対象となる API は下記のとおりです。

スクリプト開発モデル	Lock
JavaEE 開発モデル	jp.co.intra_mart.foundation.service.client.information.Lock

- (11) Microsoft Active Directory を利用してログイン認証すると、現在有効なパスワードの他に現在のパスワードに変更した時のパスワードでも認証できてしまいます。ActiveDirectory がパスワード変更後60分間だけ旧パスワードも有効とみなして認証しているため、この現象は ActiveDirectory の製品仕様となっています(2008 年 07 月 07 日現在)。
ActiveDirectory のパスワードの履歴(デフォルトは24個)を持たない(0個)設定にすることで、この現象を抑止できます(設定変更後はOSの再起動が必要です)。

- (12) Java-VMのサーバHotSpot (Java プログラムを最適化して実行する機能は、パフォーマンスアップを期待できます。Java-VM 起動時に-server オプションを指定する事により有効にできます。)を利用した場合、予期しないエラーでアプリケーションプログラムの実行が中断される場合があります(稀に、サーバがダウンする事もあります)。サーバを安定的に運用したい場合は、-server オプションを指定せずに Java-VM プロセスを実行してください。

- (13) JavaScript (サーバ側) のコンパイラオプションで、最適化レベルを 0 以外に指定した場合、予期しないエラーでアプリケーションプログラムの実行が中断される場合があります。特に、JavaScript コンパイラの最適化と HotSpot や JIT 等の Java-VM が持つ最適化機能を併用した場合、予期しないエラーが発生する可能性が高くなります。

- (14) XML プロセッサとして「Xerces」を利用する場合は、XSLT プロセッサを「Xalan」に入れ替える必要があります。なお、XML プロセッサの実装を入れ替える場合は、その影響に関して十分に考慮してから実施してください。入れ替えた XML プロセッサの実装の問題で動作不良が発生した場合、弊社ではサポートできかねますので、予めご了承ください。
- (15) SUN JDK で運用する場合、以下の設定値を適切に指定する事で、安定したサーバ稼動を期待できます。弊社では、運用環境に対するチューニングの一環として、この設定値の追加を推奨いたします。

-XX:PermSize
-XX:MaxPermSize
-XX:NewSize
-XX:MaxNewSize
-XX:SurvivorRatio
-XX:TargetSurvivorRatio

これらは、SUN JDK が提供している java コマンドオプションで、メモリ利用に関するパラメータです。

関連情報について、下記 URL をご参照ください。

<http://www.intra-mart.jp/download/doc/OutOfMemoryError.html>(2008/07/07 現在)

- (16) セッションフェールオーバーの機能を使用した環境において、二重ログイン機能を使用した場合に、一時的に二重ログイン機能が機能しない場合があります。
- (17) ServerManager、および、ServicePlatform 間の TCP コネクションが切断されるとネットワークエラーが発生します。例えば、無通信状態の時に TCP コネクションを自動的に切断するような機器がネットワーク構成内に存在する場合は該当します。弊社ではこのようなネットワーク環境での intra-mart の運用は推奨しておりません。
- (18) 検索バー機能をご利用いただく場合は、Application Runtime がインターネットに接続されている必要があります。なお、ネットワークを経由しないと外部にアクセスできない場合は、Application Runtime に proxy の設定をする必要があります。Application Runtime の imart.xml 内の intra-mart/platform/java/server/command/option に proxy の設定を追記してください。設定例を以下に示します。

-Dhttp.proxyHost={PROXY_SERVER_IP アドレス} -Dhttp.proxyPort={PROXY_SERVER_PORT 番号}

- (19) 実行環境として IBM 社製の Java-VM を利用している環境で Java-VM の JIT コンパイラを有効にしている場合、予期しないエラーでアプリケーションプログラムの実行が中断される場合があります(稀に、サーバがダウンする事もあります)。現在確認されている現象は、「ClassCastException が発生」「NoClassDefFoundError が発生」などがあります。サーバを安定的に運用したい場合は、JIT コンパイラを無効にしてください。
- (20) 実行環境として Oracle 社製の Java-VM を利用している場合、予期しないエラーでアプリケーションプログラムの実行が中断される場合があります(稀に、サーバがダウンする事もあります)。現在確認されている現象は、「JavaScript で作成した関数が正しいリターン値を返さない」「JavaScript の正規表現オブジェクトが実行時エラーになる」などがあります。サーバを安定的に運用したい場合は、SUN JDK をご利用ください。
- (21) StorageService に保存できるファイルやフォルダに関して、フォルダ内に格納できるファイル数や保存可能なファイルのパスの長さなどは、OS のファイルシステムに依存します。
- (22) かんたんログイン機能をご利用の場合は、Web サーバで、携帯電話からしかアクセスできないよう IP アドレス制限を実施していただく事をおすすめいたします。Web サーバで、IP アドレス制限をかける場合は、各携帯電話会社のホームページなどをご確認いただき、各携帯電話会社のサーバの IP アドレス帯域からのアクセスのみ許可する設定をお願いいたします。

6.3 WebPlatform

- (1) http セッションタイムアウト時間は、1 分前後の遅延が発生する可能性があります。ただし、セッションフェールオーバーに「メモリ toRDB」を利用した場合は、セッションタイムアウト設定値の 25%増し程度遅延が発生する可能性があります。

- (2) intra-mart WebPlatform(JBoss)で、セッションフェールオーバーの機能を使用している場合、2 重ログイン防止機能はご利用いただけません。
- (3) intra-mart WebPlatform(Resin)を使用した環境において、下記の全ての条件が満たされた場合に、ブラウザへファイルの送信を行うと、ファイルが破損する場合があります。

- Filter 内で HttpServletResponse をラップしている
- JSP の page ディレクティブの contentType 属性にて 2 バイト文字系の charset を指定している
- ServletOutputStream#write()を行っている

この現象を回避するためには、ServletResponse#getOutputStream()を行う前に、ServletResponse#reset()を行うと回避可能です。

- ~~(4) EJB サーバ機能を利用する場合、以下の Filter を無効にする必要があります。~~

- ~~jp.co.intra_mart.system.servlet.RequestMessageBodyFilter~~
- ~~jp.co.intra_mart.system.servlet.LuxuryResponseWriterFilter~~

この制限事項は廃止されました。

- (5) intra-mart WebPlatform(Resin)を使用した環境において、セッションフェールオーバー(メモリ To メモリ)の機能を使用した場合セッションデータの不整合が発生する場合があります。この問題は Resin3.1.x では修正されません。詳しくは、下記 URL をご参照ください。

- <http://bugs.caucho.com/view.php?id=3460>

- (6) intra-mart WebPlatform(Resin)の起動時に以下のメッセージが出力されます(動作上問題ありません)。

```
[INFO] c.c.v.JniServerSocketImpl - Socket JNI library is not available.  
Resin will still run but performance will be slower.  
To compile the Socket JNI library on Unix, use ./configure; make; make install.
```

※native モジュールはサポート対象外です。

- (7) intra-mart WebPlatform(Resin) で「jdbc/oracle/xxx」のような多階層の JNDI 名は Resin の仕様上、登録する事が出来ません。そのため、JNDI 名を登録する場合は「jdbc/oracle_xxx」のような形式で判別可能な名称を設定してください。
- (8) intra-mart WebPlatform(Resin)で Web サーバに Windows Server 2003 SP2 の IIS6.0 を利用する環境にて、resin 3.1.12 に更新されたパッチ 4 以降を利用する場合、WebServerConnector には resin3.1.9 の isapi_srun.dll を利用してください。パッチ 4 以降の resin 3.1.12 の isapi_srun.dll の内部で、Windows Server 2003 では利用できない WindowsAPI が使用されているため正しく動作しません。ただし、resin 3.1.9 の isapi_srun.dll では「OS を起動してから 49.7 日経過後に接続できなくなる問題(要件 13158)」がありますので、定期的な OS 自体の再起動が必要です。resin3.1.9 の isapi_srun.dll を利用する方法はセットアップガイドをご覧ください。

6.4 AppFramework

- (1) 実行環境として BEA WebLogic を利用している場合、スクリプト開発モデルで実行時エラーが発生したときにスローされる ServletException をエラーページでハンドリングできないため、画面にエラーメッセージや例外のスタックトレースが表示されません。

6.5 データベース

- (1) intra-mart の提供する各実装(機能や画面等)は、XA データソースには対応していません。
- (2) 同一トランザクション内のコネクションで例外が発生した場合、そのコネクションをクローズしても、コネクションプールに戻されません。トランザクションを閉じたタイミングでプールに戻されます。同一トランザクション内で SQL の例外が発生した場合も SQL を発行し続ける場合は、注意が必要です。この事象が設定 max-connections より多くなった場合、コネクションが取得できなくなります。サーバからの応答がなくなります。(待ち状態になります)

- (3) データベースに Microsoft SQL Server 2005 を使用し、Unicode 系の文字エンコーディングでデータベースを構築した場合、ViewCreator 機能は利用できません。(ViewCreator では、NVARCHAR 型のフィールドを扱えません。)
- (4) データベースに Microsoft SQL Server 2005 を使用する場合、スクリプト開発モデルの下記の API が動作しません。
- DatabaseManager#execStoredFunc()
 - DatabaseManager#execStoredProc()
- (5) データベースに Microsoft SQL Server 2005 を使用する場合、大文字・小文字を区別する設定でインストール(大文字・小文字を区別する設定でデータベースを作成)することを推奨します。
- (6) データベースに Microsoft SQL Server 2005 を使用する場合、Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver 1.1 以上をご利用下さい。
- (7) データベースに Microsoft SQL Server 2005 を使用する場合、java.sql.PreparedStatement を実行するとパフォーマンスが悪化することがあります。下記設定を追加する事によりパフォーマンスが改善することがあります。パフォーマンスに問題がある場合は、検討してください。

データソースに追加するパラメータの設定例

設定ファイル: conf/http.xml

```
<database>
...
<driver>
...
<init-param SendStringParametersAsUnicode="false" />
...
</driver>
...
</database>
```

ただし、ブラウザに表示する文字エンコーディングとデータベースの文字エンコーディングが異なる場合、文字化けの原因となる可能性がありますので、ご注意ください。

- (8) データベースに Microsoft SQL Server 2005 を使用する場合、ワークフローで提供される各一覧画面(未処理/処理済等)において、デッドロックが発生することがあります。その場合、Microsoft SQL Server 2005 のトランザクション分離レベルを変更をご検討ください。
- (9) Unicode で使える範囲の文字であっても、Java の文字コード変換機能の制約により各文字コード間で正常にコード変換されない文字があります(「〜」文字など)。インストール時にクライアントの文字コードとサーバ側文字コードに異なる文字コードを指定すると、文字化けの発生する可能性が高くなりますので、ご注意ください。

(10) 各データベースベンダーが提供している JDBC の実装により、一部の文字が化けるという問題があります。

- 弊社では、下記ドライバを使用したときに以下の全角文字が化ける(？文字に置き換えられる)ことを確認しています。

◆ Oracle JDBC ドライバを使用したとき文字化けする文字一覧

// —
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅸ Ⅹ
ミリ キロ セン メー グラ トン アー ヘク リッ ワッ カロ ドル セン パー ミリ ペー
mm cm km mg kg cc m² “ ”
No. KK TEL
Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ
(株) (有) (代) 囧 大正 昭和 平成
\$ Σ ∟ ∟

◆ MS-SQL サーバ JDBC ドライバを使用したとき文字化けする文字一覧

～ // —
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅸ Ⅹ
ミリ キロ セン メー グラ トン アー ヘク リッ ワッ カロ ドル セン パー ミリ ペー
mm cm km mg kg cc m²
“ ”
No. KK TEL
Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ
(株) (有) (代) 囧 大正 昭和 平成
\$ Σ ∟ ∟

◆ DB2 UDB JDBC ドライバを使用したとき文字化けする文字一覧

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅸ Ⅹ
ミリ キロ セン メー グラ トン アー ヘク リッ ワッ カロ ドル セン パー ミリ ペー
mm cm km mg kg cc m²
“ ”
No. KK TEL
Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ
(株) (有) (代) 囧 大正 昭和 平成
\$ Σ ∟ ∟

◆ PostgreSQL JDBC ドライバを使用したとき文字化けする文字一覧

～ // —
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅸ Ⅹ
ミリ キロ セン メー グラ トン アー ヘク リッ ワッ カロ ドル セン パー ミリ ペー
mm cm km mg kg cc m²
“ ”
No. KK TEL
Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ
(株) (有) (代) 囧 大正 昭和 平成
\$ Σ ∟ ∟

- データベースを Unicode で構築することにより文字化けが軽減されることがあります。弊社では、Oracle を Unicode で構築した場合に上記機種依存文字が文字化けしないことを確認しております。

6.6 JavaEE 開発モデル

- (1) im-JavaEE Framework の一部の機能(サービスフレームワーク)は、バッチプログラム中で利用できません。
- (2) 1つのロケールに対して複数の文字エンコーディングを設定した場合、文字エンコーディングを変更しても JSP で作成された画面の文字エンコーディングは変更されません。JSP の場合は、ページディレクティブの定義内容にしたがって実行されます。

※ページディレクティブの一例

```
<%@ page contentType="text/html; charset= Windows-31J" pageEncoding="Windows-31J" %>
```

- (3) Hotdeploy 機能を使用する場合は、im-JavaEE Framework のコンポーネントに対する自動DIおよびアスペクトを利用できません。
- (4) IMART タグ「floatingCalendar」は、そのタグを利用する form 内に name 属性が「calendar」となる項目が存在すると、フローティングカレンダーが正常に動作しません。IE7 ではフローティングカレンダーが開きません。

6.7 スクリプト開発モデル

- (1) 設定ファイル(*.ini)中の一部の日本語(2bytes 文字)がスクリプト開発モデル API System.getValue()メソッドで取得した際、文字化けします(*.ini ファイルを SJIS(MS932)で記述していた場合のみ)。
- (2) 以下の条件を満たす場合に、<IMART type="floatingCalendar">の表示が崩れます。

- ApplicationRuntime のタイムゾーンが JST(日本時間)の場合
 - 「1948, 1949, 1950, 1951 年」かつ「夏時間(サマータイム)実施している月」である。
- ApplicationRuntime のタイムゾーンが JST 以外の場合
 - 「1970 年以前または 2038 年以降」かつ「夏時間(サマータイム)実施している月」である。

本現象は、java.util.Date のインスタンスが JVM のデフォルトタイムゾーンで夏時間の範囲内を意味する場合、その Date インスタンスのミリ秒を JavaScript の Date 型のコンストラクタに渡すと、一時間ずれた日付になるスクリプト開発モデルエンジン(Rhino1.6)の仕様によるものです。

- (3) DB の DATE 型フィールドを、スクリプト開発モデル API「DatabaseManager」で取得する際、Oracle のバージョン(JDBCドライバのバージョンを含む)によって異なる JavaScript 型が返却されます。

- 事象
Oracle Database 11g リリース 1 (11.1) より、デフォルトで「oracle.sql.DATE」が「java.sql.Timestamp」にマッピングされるようになりました。(なお、Oracle Database 9.0.1 から 11.0 では、「oracle.sql.DATE」が「java.sql.Date」にマッピングされていました)

この影響により、DB の DATE 型フィールドを、スクリプト開発モデル API「DatabaseManager」で取得する場合、Oracle のバージョン(JDBCドライバのバージョンを含む)によって異なる JavaScript 型が返却されます。

具体的には、

- Oracle Database 9.0.1 から 11.0 を利用している場合は、JavaScript の Date 型が返却され、
- Oracle Database 11.1 以降 を利用している場合は、JavaScript の String 型が返却されます。

- 対応方法
Java のシステムプロパティ「**oracle.jdbc.mapDateToTimestamp**」を **false** に設定してください。
具体的には、ApplicationRuntime の conf/imart.xml 「intramart/platform/java/server/command/option」を以下のように編集してください。

- 修正前
<option>-cp %SYSTEMCLASSPATH% -Xms%XMS% -Xmx%XXM% -Djava.awt.headless=true
-Dcom.sun.management.jmxremote</option>

- 修正後
<option>-cp %SYSTEMCLASSPATH% -Xms%XMS% -Xmx%XXM% -Djava.awt.headless=true
-Dcom.sun.management.jmxremote **-Doracle.jdbc.mapDateToTimestamp=false**</option>

Java のシステムプロパティ「oracle.jdbc.mapDateToTimestamp」の詳細は Oracle のドキュメントをご参照ください。

Oracle Database JDBC 開発者ガイドおよびリファレンス 11g リリース 1 (11.1) – [A リファレンス情報] – [埋込み SQL92 構文] – [Oracle オブジェクト型から SQL DATE データ型へのマッピング]

(<http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/oracle11g/111/doc.dvd/java.111/E05720-02/apxref.htm#i1005144>)

- (4) ~~スクリプト開発モデルでは、DB2 を利用している場合、LOB 系データ(CLOB, BLOB)を SELECT することはできません。~~
この制限事項は解除されました。
- (5) DatabaseManager (スクリプト開発モデル) の fetch メソッドのパフォーマンス向上オプションを false に設定し、DB2 を利用している場合、LOB 系データ(CLOB, BLOB)を SELECT することはできません。
- (6) JSP カスタムタグ「floatingCalendar」は、そのタグを利用する form 内に name 属性が「calendar」となる項目が存在すると、フローティングカレンダーが正常に動作しません。IE7 ではフローティングカレンダーが開きません。

6.8 マスカット

- (1) マスカットを使用してアプリケーションを構築する場合、文字コードは全て「UTF-8」を指定してください。
- (2) マスカットで作成された画面を表示する際には、ClientSideJavaScript およびブラウザのクッキーの使用は必須となります。
- (3) マスカットで作成された画面を表示する際には、セッション管理にクッキーを使用すること必須となります。
- (4) マスカットで作成された画面はポータルに設定することはできません。

6.9 ブラウザ

- (1) 当製品が提供するブラウザ用画面において、ブラウザの[戻る]及び[進む]ボタンは使用しないでください。
- (2) 当製品が提供するブラウザ用画面は ClientSideJavaScript を使用しています。通常の PC 接続においては、ClientSideJavaScript 有効にしてください(携帯電話で接続する場合は除きます)。
- (3) 当製品が提供するブラウザ用画面は、ブラウザのクッキー機能を利用した機能を持っています。通常の PC 接続においては、クッキーを有効にしてください(携帯電話で接続する場合は除きます)。
- (4) ブラウザの表示言語設定(エンコード)において「自動判別」は選択しないで下さい。なお、「日本語(自動選択)」は比較的文字化けの可能性が少ないことが確認されています。
- (5) 標準では、ユーザセッションはブラウザのクッキー機能を利用して管理されています。このため、同一のコンピュータで同一種類のブラウザを複数起動した場合に、同時にログインを行うと画面は正常に動作しません。
- (6) Microsoft Internet Explorer と Firefox では、スタイルシート等の処理が異なるため、画面の表示イメージが異なる場合があります (Firefox ではグラデーションが表示されない、テキストエリアの文字が大きく表示される等)。スタイルシートの解釈はブラウザの実装によるものです。ブラウザ製品によって発生する表示の違いが、スタイルシートの解釈の相違によるものである場合、本製品の不具合ではありませんので予めご了承ください。
- (7) Firefox を使用した場合に、ブラウザのエラーコンソールにスタイルシートの警告が出力されますが、動作上問題ありません。
- (8) Microsoft Internet Explorer を使用し、セキュリティの設定において、レベルを高にすると ClientSideJavaScript が動作しなくなるのでご注意ください。
- (9) Microsoft Internet Explorer を使用し、プライバシーの設定において、レベルを高にするとクッキー機能が動作しなくなるのでご注意ください。

- (10) Microsoft Internet Explorer を使用した場合、画面表示終了後もステータスバーが動作し続ける場合があります。
- (11) Microsoft Internet Explorer を使用し、ファイルのダウンロード機能を使用した場合に、ダウンロードに失敗したり、ダウンロード成功後 ClientSideJavaScript が動作しなくなる場合があります。ClientSideJavaScript が動作しなくなった場合には、該当画面を再読込後、作業を再開してください。
- (12) Microsoft Internet Explorer を使用し、Excel ファイルをダウンロードするとファイルを開く事に失敗する事があります。これは、Excel が開くファイルのファイル名に長さ制限があるためです。詳細は、下記 URL をご参照ください。
<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;JP416351> (2008/07/07 現在)
- (13) Windows XP を実行しているコンピュータで、ブラウザに Windows Internet Explorer 7.0 を使用する場合、ファイルをダウンロードできないことがあります。詳細は、下記 URL をご参照ください。
<http://support.microsoft.com/kb/932823/ja> (2008/07/07 現在)
- (14) Microsoft Internet Explorer 7.0 を使用し、ズーム機能を使用してページを拡大・縮小した場合、Web ページが正しく表示されないことがあります。関連情報について、下記 URL をご参照ください。
<http://support.microsoft.com/kb/933053/ja> (2007/07/07 現在)
- (15) ブラウザでサブミットボタンのある画面で、作業中にリターンキーのみを入力してしまった場合、サブミットボタンをクリックしなくてもフォームが送信されてしまう場合があります(ブラウザソフトの動作仕様に依存します)。フォームの送信内容をチェックしていないプログラムでは実行時エラーとなってしまう場合がありますので、ご注意下さい。
- (16) アクセスコントローラ設定画面等で利用されている「権限設定リスト」を操作しているとのインターネット一時ファイル(Cookie)の設定が以下の場合、画像が表示されないことがあります。
- 設定項目 : 保存しているページの新しいバージョンの確認
 - 設定値 : ページを表示するごとに確認する
- これを解決するには、「自動的に確認する」に設定してください。
- (17) Internet Explorer 8 を使用した場合、ログイン直後に F11 キーで全画面化を行い「MENU ON/OFF」を押下すると画面が描画されません。

6.10 アプリケーション共通マスタ

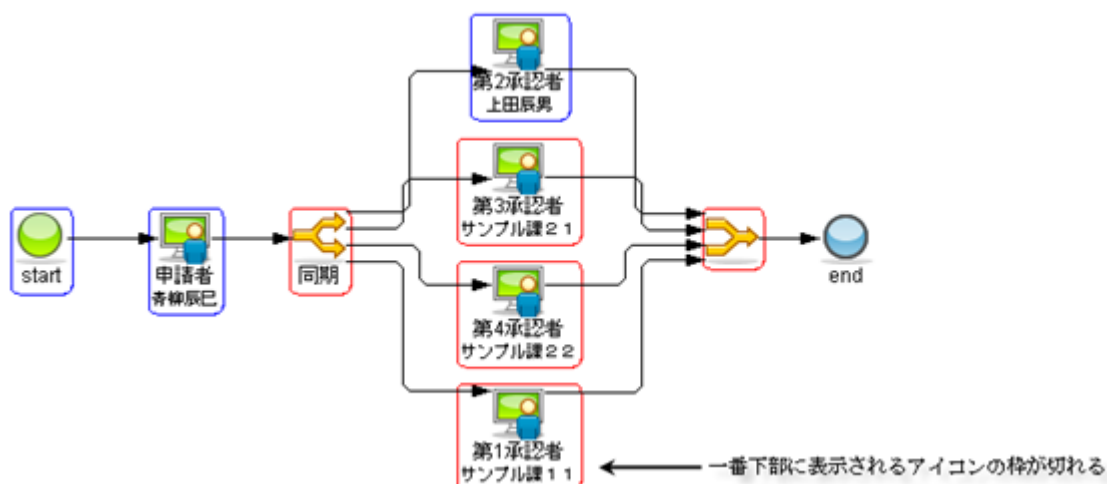
- (1) アプリケーション共通マスタの会社・組織マスタメンテナンスにおいて、会社をまたがった組織の移動はできません。
- (2) アプリケーション共通マスタのパブリックグループマスタメンテナンスにおいて、第一階層のグループをまたがったグループの移動はできません。
- (3) アプリケーション共通マスタの会社・組織、パブリックグループマスタメンテナンスにおいて、所属ユーザの他組織への移動はできません。
- (4) アプリケーション共通マスタに登録しているデータの量が多くなると、ユーザや組織の検索画面での組織ツリー表示が遅くなります。標準のツリービューではなく、リンクによるページ切り替え方式 (conf/imart.xml の設定項目 intra-mart/platform/service/application/tree-view で設定) にすることでパフォーマンスを改善できます。
- (5) ユーザ検索画面でのキーワード検索(「あかさたな」検索を含む)は、データ量に比例して検索処理時間が長くなります。データ量が多い場合は、組織やパブリックグループからユーザを検索してください。
- (6) ユーザ所属を XML 形式でエクスポートする際に、ユーザが所属する会社組織とパブリックグループにおいて、会社コードとパブリックグループセットコードが同一だった場合、正常に XML を出力できません。会社コードとパブリックグループセットコードには同一のコードを用いず、たとえば、会社組織とパブリックグループでそれぞれプリフィックス("C_"や"P_")を付与するようにして回避してください。

6.11 ポータル

- (1) 幅の狭い領域に幅の広いポートレットを配置した場合、全体のレイアウトが崩れてしまいます。ポートレットの推奨配置領域を守るようにしてください。
- (2) ポートレットのタイトルを表示しない設定をした場合でも、ドラッグアンドドロップをするために、常にタイトルバーが表示されます。
- (3) システム管理者が JSR168 対応ポートレットを削除しても、グループ管理者が削除するまでポートレットは利用可能です。グループ管理者に連絡し、ポートレットを個別に削除するようにしてください。
- (4) 一般に公開されている JSR168 ポートレットは、環境に依存する場合があります。そのため、ポートレットによっては意図しない動作をする可能性があります。
- (5) Google ガジェットポートレットについては、環境に依存する場合があります。そのため、Google ガジェットにより意図しない動作をする可能性があります。
- (6) アプリケーション共通マスタの情報を更新した場合、アクセス権情報に不整合が起こる可能性があります。アクセス権を設定しているポータルやポートレットは個別に対応するようにしてください。
- (7) 同一ポートレットを同一ページ内で複数配置した場合、正常に動作しないことがあります。
- (8) ドラッグアンドドロップ処理を繰り返した場合、ブラウザによりスクリプトエラーが発生することがあります。以降の操作に影響はありませんが、タブ順序やポートレット配置が保存されていない可能性があります。その場合、最新表示を行って確認するようにしてください。
- (9) オープンソースのライブラリを利用しているため、一部のエラーメッセージが英語で表示されることがあります。
- (10) リンク集をグローバルポータルに配置した場合は、表示設定で「メインページ」で開く設定をした場合でも、新規ウィンドウで表示されます。
- (11) intra-mart AppFramework では、Portlet API 1.0 (JSR168)対応のポートレットを利用することができません。
- (12) ポートレットにおいて、`<IMART type="jssspRpc">`を使用する場合、ポートレット毎に以下の CSJS を`<script>`タグにて定義する必要があります。
 1. `<script language="javascript" src="/imart/csjs/im_json.js"></script>`
 2. `<script language="javascript" src="/imart/csjs/im_ajax_request.js"></script>`
 3. `<script language="javascript" src="/imart/csjs/im_jsssp_rpc.js"></script>`※コンテキストパスが「/imart」の場合
- (13) インターネットポートレット、リンク集は、外部 URL を登録するためのポートレットです。
もし、同じイントラマート上の URL を登録した場合、ポータル画面に表示した時点で現在のセッションが削除されてしまい、未ログイン状態となってしまいます。
その場合、グループ管理者のポートレット管理画面からポートレット自体を削除する必要がありますので、注意してください。
- (14) Ajax 等で動的にポートレットサイズを変更している場合、Firefox で画面サイズを変更すると上部、下部のポートレットが重なって表示される場合があります。
- (15) クライアントのインターネットオプションにて「マイコンピュータのファイルでのアクティブコンテンツの実行を許可する」に設定して、インターネットポートレットに存在しない URL を指定するとポータルがフリーズしてしまう場合があります。

6.12 ワークフローモジュール

- (1) データベースに Oracle 以外を使用する場合、処理をデータベースに対し複数同時に行うとデータベースがデッドロックを起こしてしまう場合があります。その場合、画面側では「ただいま処理が混みあっています。再度処理を実行して下さい。」というメッセージを表示します。
- (2) データベースに IBM DB2 を使用する場合には、64bit 対応の OS を使用してください。
- (3) [ワークフロー]-[インポート／エクスポート]-[プロセス定義]画面でプロセス定義のインポートおよびエクスポートを行なうには、Microsoft Office Excel が必要です。ただし Microsoft Office Excel 2007 以上には対応していません。
- (4) Web アプリケーションサーバに、WebSphere を利用している環境で、「サーブレットのキャッシュを使用可能にする」の設定を有効にした場合、プロセス定義のインポート／エクスポートは行えません。
- (5) ワークフローの一部の画面(設定画面)は、JavaWeb Start を使用しています。このため、Java Plug-in が必要です。
- (6) プロキシサーバ等を経由して利用している環境では、ワークフローのフローメンテ画面が表示されない場合があります。回避手順については、エラーガイドを参照ください。
- (7) [ワークフロー]-[メンテナンス]-[プロセス定義]画面でフローの「編集(ルート設定)」を行うとワークフローデザイナー(EclipseRPC)がインストールされます。各端末において初回起動時は、ワークフローデザイナー(EclipseRPC)がダウンロードされるため起動に時間がかかる場合があります。
- (8) [ワークフロー]-[メンテナンス]-[プロセス定義]画面でフローの「編集(ルート設定)」を行った場合、「アプリケーションを起動できません。」と表示される場合があります。再度、実行を行うか、それでも解決しない場合は、Windows [設定]-[コントロールパネル]-[Java]より、基本タブのインターネット一時ファイルから、キャッシュを削除してください。
- (9) Windows [設定]-[コントロールパネル]-[プログラムと削除]から、ワークフローデザイナー(Workflow Designer)を削除することはできません。手動で削除を行ってください。下記 URL をご参照ください。
http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6587168
- (10) Web サーバに IIS を利用している環境において、端末(クライアント)の Java Plug-in が「JRE1.5.x」の場合に、ワークフローデザイナーが起動できないことがあります。この場合は、「JRE1.6.x」をご利用ください。
- (11) ワークフローモジュールより送信されるテンプレートメール機能において使用されるメールアドレスは、ユーザプロファイルに設定される「メールアドレス1」のみを使用します。「メールアドレス2」は利用されません。
- (12) フロー参照画面のフロー図において、一番下部に表示されるアイコンの進捗状況を表す枠線が切れます。



- (13) ワークフローデザイナーは、64bit の OS のクライアント環境では利用できません。32bit の OS のクライアント環境でご利用ください。
- (14) ワークフローデザイナーにてタスクの自動整列機能を利用するとき、分岐・同期内に複数のノードが配置されていた場合ノードが重複した状態で表示されることがあります。

6.13 FormatCreator

- (1) ワークフローモジュールのプロセス種別「ビジネスプロセスワークフロー」には対応していません。
- (2) 各画面から呼び出すことができるHELP画面は、カラーパターン変更に対応していません。
- (3) [Format Creator] - [マスタメンテナンス] - [申請書メンテナンス]画面では、クライアントサイド JavaScript を多用しています。そのため、クライアントとして使用しているマシンのスペックが足りない場合、操作に時間がかかります。
 - クライアント検証環境: CPU Intel(R) Celeron(R) プロセッサ 1.70GHz
 - 該当操作において、CPU 使用率は大きいものの、メモリ使用量は大きいものではありません。
 - クライアントマシンの物理メモリは 256MB以上を推奨します。
- (4) 申請書に配置する項目において、「項目 ID」に指定できる文字の範囲は[A-Za-z0-9]です。
- (5) 申請書に「コンボボックス」/「チェックボックス」/「ラジオボタン」を配置する場合に、内部コードに指定できる文字の範囲は[A-Za-z0-9]です。
- (6) 「審議タスクで承認者が申請書に追記する機能」において、“登録”および“更新”ボタンの押下を行わないと必須チェックおよび入力チェックは行われません。
- (7) PDF 出力において表示される PDF ファイルを表示するには、Adobe Reader が必要です。
- (8) PDF 出力において表示される申請書においては、レイアウト設定で指定した「縦」の大きさは反映されません。
- (9) PDF 出力においてセル数の多い申請書は、正常の出力されない(ページに収まらない)場合があります。
- (10) PDF 出力において同時にフロー情報を出力した場合、タスク数の多いプロセス定義を設定するとフロー情報が正常に表示されない(ページに収まらない)場合があります。
- (11) PDF 出力において、項目に数値を設定し「整数部+小数部」合わせて 17 桁以上になる数値を入力した場合に、正常に表示されません。
- (12) Microsoft Internet Explorer6を使用すると、[Format Creator] - [マスタメンテナンス] - [申請書メンテナンス]画面において、ブラウザが強制終了する場合があります。その場合は、他のブラウザをご利用ください。

6.14 ViewCreator / TableMaintenance

- (1) TableMaintenance 機能において、データベースに Microsoft SQL Server を使用する場合、Timestamp 型のフィールドを編集することはできません。
- (2) TableMaintenance 機能において、バイナリ型を扱うことはできません。
- (3) TableMaintenance 機能において、「テーブル編集画面」でフィールドのサイズに対してオーバーフローを起こす長さのデータが入力された場合、データベースから返されたエラーメッセージが表示されます。
- (4) ViewCreator 機能において、データ参照作成時(リスト集計)で「抽出条件」に同一カラムを複数設定することはできません。同一カラムを複数設定する場合は、クエリ作成時の「抽出条件」で絞込みを行ってください。

- (5) ViewCreator 機能を利用する場合、グループデータソースと同じ内容のシステムデータソースを設定する必要があります。具体的には、接続 ID に「該当するログイングループ ID」、データソース参照名に「該当するログイングループと同じデータソース参照名」を設定したシステムデータソースを追加する必要があります。

以下に、conf/data-source.xml の設定例を示します。(ログイングループ「group_a」の場合)

■修正前

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<data-source>
  .
  .
  .
  <group-data-source>
    <login-group-id>group_a</login-group-id>
    <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/XYZ</resource-ref-name>
  </group-data-source>
  .
  .
  .
</data-source>
```

■修正後

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<data-source>
  .
  .
  .
  <system-data-source>
    <connect-id>group_a</connect-id>
    <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/XYZ</resource-ref-name>
  </system-data-source>
  <group-data-source>
    <login-group-id>group_a</login-group-id>
    <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/XYZ</resource-ref-name>
  </group-data-source>
  .
  .
  .
</data-source>
```

6.15 Web サービス

- (1) Web サービスについての制限事項は、Web サービス・プログラミングガイド「制限事項」を参照ください。

6.16 BPM|Server

- (1) BPM|Server は、別インストーラとなっています。
- (2) BPM|Server が使用する HTTP ポートは 8080 固定です。
- (3) BPM|Server は SSL に対応していません。
- (4) WebPlatform/AppFramework の IP アドレス/HTTP サービスのポート番号/コンテキストパスを変更した場合は、BPM|Server の再インストールが必要です。
- (5) BPM|Server の IP アドレス/HTTP サービスのポート番号を変更する場合は、BPM|Server の再インストールが必要です。
- (6) ユーザアカウントのパスワードは、1-12 バイトまでの範囲で設定する必要があります。
- (7) ログイングループIDは、1-15 バイトまでの範囲で設定する必要があります。

- (8) データベースをオラクルにした場合、メニュー[BPM]-[管理]のインスタンス一覧でフィルタ機能が使用できません。
- (9) 以下の ID 及びコードについて、BPM|Server 上では全て小文字で扱われます。
- アカウント ID
 - 会社コード
 - 組織コード
 - ロール ID
 - パブリックグループセットコード
 - パブリックグループコード
 - 役職コード
- (10) Axis2 の org.apache.axis2.client.ServiceClient クラスを利用した場合にメモリリークが発生する場合があります。この影響により、「プロセス一覧」、「未処理一覧」、「通知一覧」、「処理済一覧」表示時と API「TaskManager」使用時にもメモリリークが発生する場合があります。定期的にサーバの再起動を行ってください。
- (11) 初期処理タスクを含むプロセスをデプロイすると、メニュー[BPM]-[管理]でアンデプロイを実行してもプロセス一覧からは消えません。
- (12) WebService としてデプロイされたプロセスの、WSDL のリンクが正しく表示されません。正しい URL については、「BPM|Designer 操作ガイド 2.4.3 WebService プロセスの WSDL」を参照して下さい。

6.17 BPM|Designer

- (1) ワークフローフォームエディタで、「アップロード」コンポーネントは使用できません。
- (2) 管理画面(bpms-console)で、サーバ起動後の初回アクセス時に「PAGE NOT AVAILABLE」と表示される場合があります(複数回アクセスすることで、正常に表示されるようになります)。
- (3) ワークフローフォームエディタで、「リンク」コンポーネントを使用する際は、プロパティビューで、URL の初期値を設定する必要があります。
- (4) BPM プロセス内で外部 WebService と連携している場合、WSDL 等のファイルを編集すると権限がクリアされます。
- (5) プロパティ・ビューでプールのフォントを変更すると、プール内に配置されたリスク及びコントロールのフォントも変更されます。
- (6) プロパティ・ビューで、リスク及びコントロール単体のフォント変更はできません。
- (7) 以下の手順で、プロパティビュー内の「タイトル」の表示が消える場合があります(プロセスの動作に支障はありません)。
- ① xform または imform タスクを選択し、プロパティビューの workflow タブを選択する。
 - ② そのタスクが置いてあるプールを選択する。
- (8) 1つのプロセス(.bpm ファイル)内で、1つの.xform または.imform ファイルを複数個配置することはできません。配置するヒューマンタスクの数だけ、.xform、.imform ファイルを用意する必要があります。
- (9) デプロイ済みのプロセス内に初期処理タスクとして配置されている xform 及び imform は、以下の変更ができません。
- .xform の場合
 - 別の.xform ファイルや.imform ファイルに入れ替えることはできません。
 - .imform の場合
 - 「パス」を変更することはできません。

- 別の.xform ファイルや.imform ファイルに入れ替えることはできません。

6.18 ESB Mule

- (1) ESB Mule には、インストーラはありません。ESB Mule を使用するには、付属のファイル (ZIP) を解凍しご利用ください。
- (2) 本製品に付属の ESB Mule は、Community 版です。実運用でご利用いただく場合は、Enterprise 版 (有償) へのアップグレードを推奨いたします。Enterprise 版では、運用監視機能等がご利用いただけます。

6.19 その他

- (1) サンプルプログラムでは、詳細な例外処理は行っていません。
- (2) サンプルデータは、他製品のサンプルデータと同時に入れることはできません。また、一度入れたサンプルデータは一括削除できません。サンプルデータを一括削除するには、再インストールおよびデータベースの再構築をして下さい。
- (3) 以下のファイル操作サンプルでは、日本語ファイル名での操作に対応していません。
 - [サンプル]-[スクリプト開発モデル]-[ファイル操作]
 - [サンプル]-[JavaEE 開発モデル]-[ファイル操作]
- (4) 以下のサンプル画面はデータベースを使用します。
 - [サンプル]-[スクリプト開発モデル]-[ショッピングカート]
 - [サンプル]-[スクリプト開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
 - [サンプル]-[JavaEE 開発モデル]-[ショッピングカート]
 - [サンプル]-[JavaEE 開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
- (5) ワークフローのサンプルプログラムはデータベースを使用します。
- (6) 以下のサンプルは、「ウェブブラウザに送信する文字コード」および「サーバモジュールの文字コード」に、“UTF-8”を指定した環境でない場合、動作しません
 - [サンプル]-[スクリプト開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
 - [サンプル]-[JavaEE 開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
- (7) 以下のサンプル画面を Firefox で表示した場合、ログにワーニングが出力されますが、動作上問題はありません。
 - [サンプル]-[スクリプト開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
 - [サンプル]-[JavaEE 開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
- (8) 以下のサンプル画面を Microsoft Internet Explorer で表示した場合、「ウェブブラウザに送信する文字コード」を”UTF-8”として構築した環境では、ランタイムエラーが発生することがあります。ランタイムエラーが発生した場合には、画面上で「右クリック→エンコード→その他→Unicode (UTF-8)」を選択して、ブラウザのエンコードを変更してください。
 - [サンプル]-[スクリプト開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
 - [サンプル]-[JavaEE 開発モデル]-[ショッピングカート[maskat]]
- (9) イベントナビゲータのサンプルは、ワークフローのサンプルデータを使用しています。そのため、スタンダード版ではナビゲート結果のリンクを押して遷移することができません。スタンダード版ではイベントナビゲータの機能を確認する目的で利用してください。
- (10) 「エンタープライズ for BPM」をご利用いただくには、WebPlatform/AppFramework Ver.7.0.1 (Patch1) の適応が必要です。

- (11) DebugServer をご利用いただくには、「eBuilder Version6.1 パッチ3」の適応が必要です。
- (12) WebPlatform/AppFramework Ver.7.0.2(Patch2)で、「JIS2004 対応」を行いました。詳細については、別紙「JIS2004 対応について」を参照ください。
- (13) WebPlatform/AppFramework インストーラにおいて、「以下のスタートメニューに登録します」と表示されますが、「製品：intra-mart DebugServer」を選択した場合には、スタートメニューに登録されません。

7 これまでに判明している問題

- (1) メニュー[BPM]-[管理]から起動される管理コンソールにおいて、操作上不具合が発生することが確認されています。今後のパッチおよびリビジョンで対応を行う予定です。
- (2) XForm 画面における「添付ファイル」機能(画面上部のクリップアイコン)において、操作上不具合が発生することが確認されています。添付ファイルを扱う場合は、リレーションフォームを使用することを推奨します。
- (3) WebPlatform / AppFramework を IBM 社製の Java-VM でご利用の場合、以下の障害が発生し、障害が発生した場合、intra-mart を再起動しない限り、復旧できないという事象が発生しております。当事象は、IBM 社製の Java-VM 内部での問題であり、事象の発生理由、原因等含め、現在 IBM での確認中ですので、当事象が解消するまでの期間、IBM 社製の Java-VM 環境下での、intra-mart WebPlatform / AppFramework のご利用は推奨しません。

発生する障害

アクセスセキュリティ情報 `getAccount()/xxxxxx(Account)` の取得に失敗しました。
アクセスセキュリティ情報 `getMenuItem()/xxxxxx(Menu)` の取得に失敗しました。
というエラーメッセージが intra-mart を再起動するまで、出力され、ログインできなくなる。

8 著作権および特記事項

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

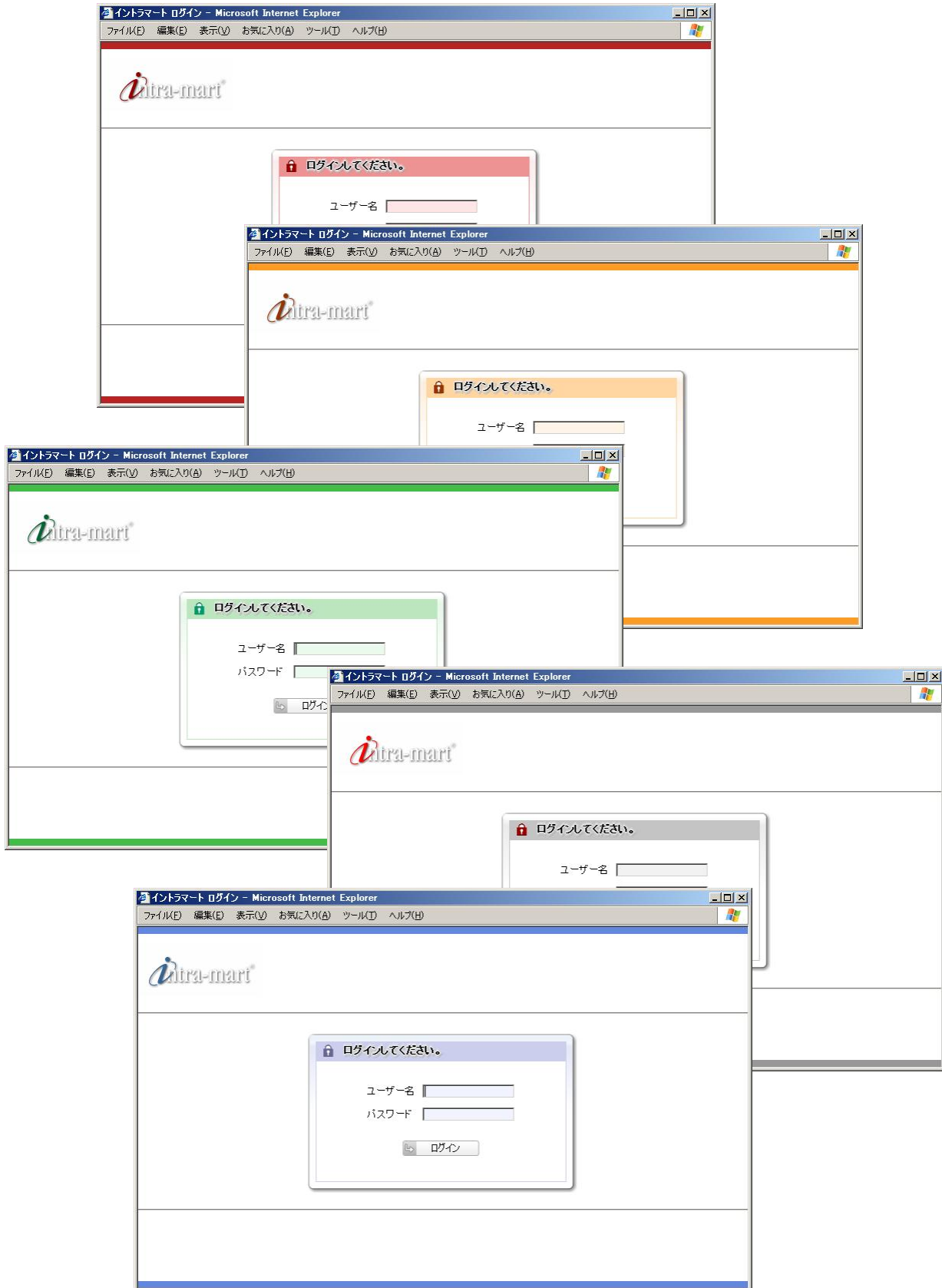
本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

各ソフトウェアのライセンスについては、同封のライセンスシートをご参照ください。

以上

9 付録 画面イメージ

9.1 ログイン画面 一般ユーザ



9.2 グループ管理者権限の委譲機能

イントラマート ログイン - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

intra-mart

Login Group Manager [default]

ユーザー名

パスワード

☐ グループ管理権限ユーザでログイン

※ブックマークはこのページで行ってください。

グループ管理者のメイン画面 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

HOME LOGOUT MENU ON/OFF ? default intra-mart

グループ管理権限ユーザ メニュー設定

アカウント プロフィール

ユーザコード

ユーザ名

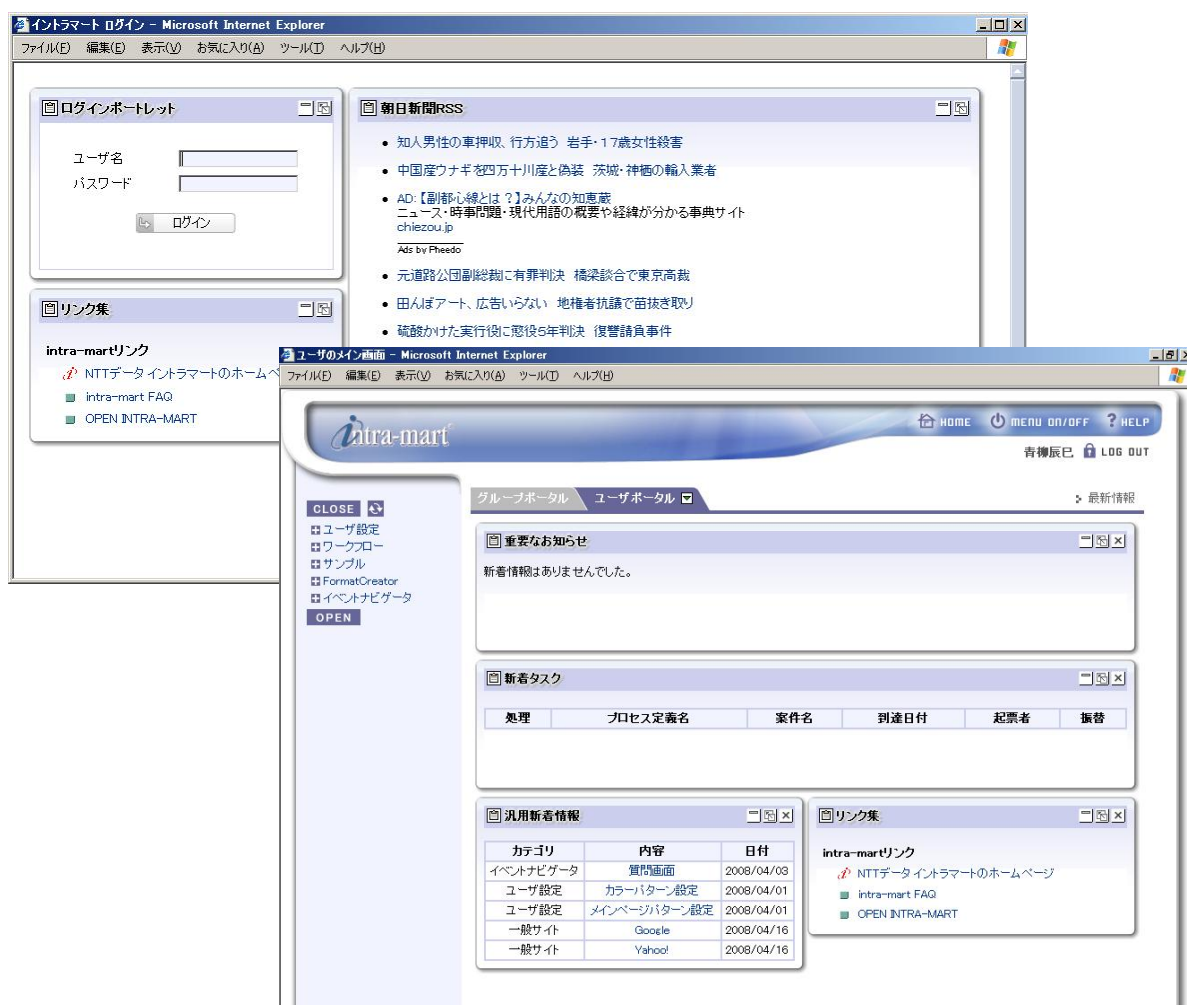
1 - 13 / 13

管理権限	ユーザコード	ユーザ名
	guest	名称未定義 (guest)
	ueda	上田辰男
	aoyagi	青柳辰巳
	hayashi	林政義
	maruyama	円山益男
	sekine	関根千香
	terada	寺田雅彦
	yoshikawa	吉川一哉
	ohiso	大磯博文
	hagimoto	萩本順子
	ikuta	生田一哉
	katayama	片山聡
	harada	原田浩二

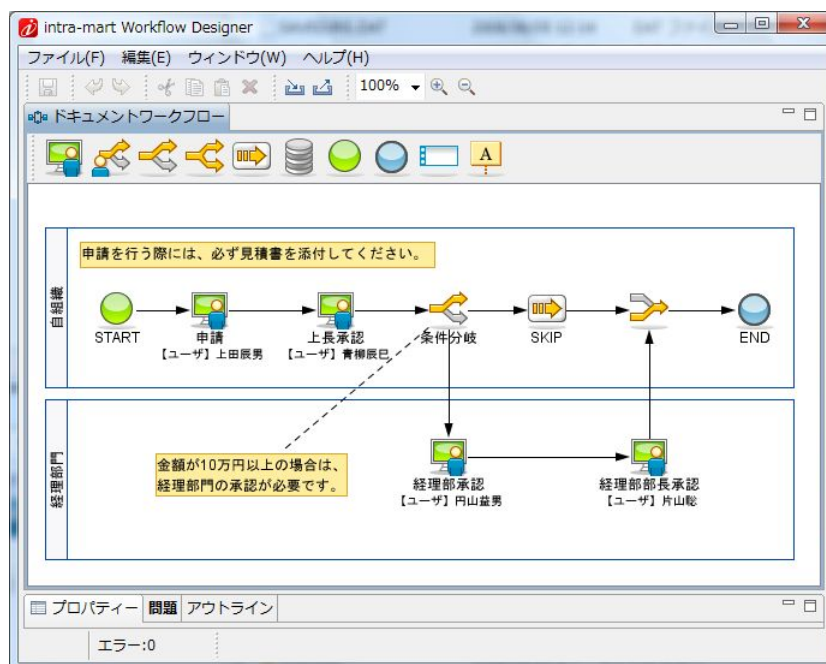
aoyagi のグループ管理メニュー設定 全て開く 全て閉じる

- ログイングループ管理
 - ログイングループ設定
 - ロール設定
- アカウント管理
- メニュー管理
 - カレンダー設定
 - バッチ設定
 - アクセスコントロール設定
 - グループ管理権限ユーザ設定
 - Webサービスアクセス設定
- アクセスセキュリティ情報入出力
- アプリケーション共通マスタ管理
- ポータル
- ViewCreator
- TableMaintenance
- イベントナビゲータ管理

9.3 ポータル



9.4 ワークフローデザイナー



9.5 FormatCreator

ユーザーのメイン画面 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

intra-mart HOME MENU ON/OFF ? HELP 円山益男 LOG OUT

CLOSE

- ユーザ設定
- ワークフロー
- サンプル
- FormatCreator
 - マスタメンテナンス
 - 申請書メンテナンス
 - ワークフロー連携
 - 申請書CSV出力
 - 申請書再利用
 - イベントナビゲータ

OPEN

マスタメンテナンス/申請書メンテナンス/申請書レイアウト

確定 一時保存 プレビュー ヘルプ 戻る

タイトル	年月日
タイトル	申請者名
タイトル	コンボボックス
タイトル	年月日
タイトル	年月日
タイトル	数値
タイトル	テキストエリア

項目設定メニュー

レイアウト	項目設定
固定表示	テキスト
テキストエリア	数値
自動計算	年月日
コンボボックス	チェックボックス
ラジオボタン	クラス指定
DB参照(テキスト)	DB参照(コンボボックス)

01 勤怠関連 休暇申請 (プレビュー) - Microsoft Internet Explorer

01 勤怠関連 休暇申請 (プレビュー)

項目の表示 閉じる

以下の内容で休暇を申請します。

申請日 (必須)	2008/07/04
申請者 (必須)	申請者名
休暇種別	
取得日	開始日: 2008/07/07 終了日: 2008/07/07
休暇日数	日
休暇理由	
承認コメント	

9.6 BPM

CLOSE
ユーザ設定
ワークフロー
BPM
プロセス
未処理
処理済
通知
進捗
進捗(管理)
管理
サンプル
FormatCreator
イベントナビゲータ
OPEN

HOME
MENU ON/OFF
HELP
上田辰男
LOG OUT

起票(ドキュメントワークフロー)
プロセス(BPM)

プロセス一覧
最新情報

プロセス名:
検索

昇順
降順
1-5/5 表示中

開始
プロセス名

ERPシステム保守・運用
ERPシステム開発・納品
システム構築コンサルティング
パッケージ開発・納品
人材開発-管理者研修

昇順
降順
1-5/5 表示中

HOME
MENU ON/OFF
HELP
上田辰男
LOG OUT

進捗一覧 - 管理
検索
最新表示

削除

昇順
降順
1-3/3 表示中

案件番号
プロセス定義
案件名
詳細
開始日
状態

163844
業務プロセス
備品発注
2008/08/15 11:13
完了

163847
業務プロセス
開発用PC注文
2008/08/15 11:14
完了

163850
業務プロセス
営業用ノートPC注文
2008/08/15 11:16
処理中

昇順
降順
1-3/3 表示中

削除

INTALIO
PROCESSES
INSTANCES
TOOLS
defaulttueda
REFRESH
LOGOUT

INSTANCE DETAILS
Invoke
Resume
Suspend
Terminate

Instance Details:
(http://example.com/IM_Demo/systemProcess/systemProcess-3)

State:
In Progress
Started:
2008-08-15 10:52:33

Identifier:
163842
Last active:
2008-08-15 10:52:35

Diagram
Data
Events

Diagram

started
fault
failed

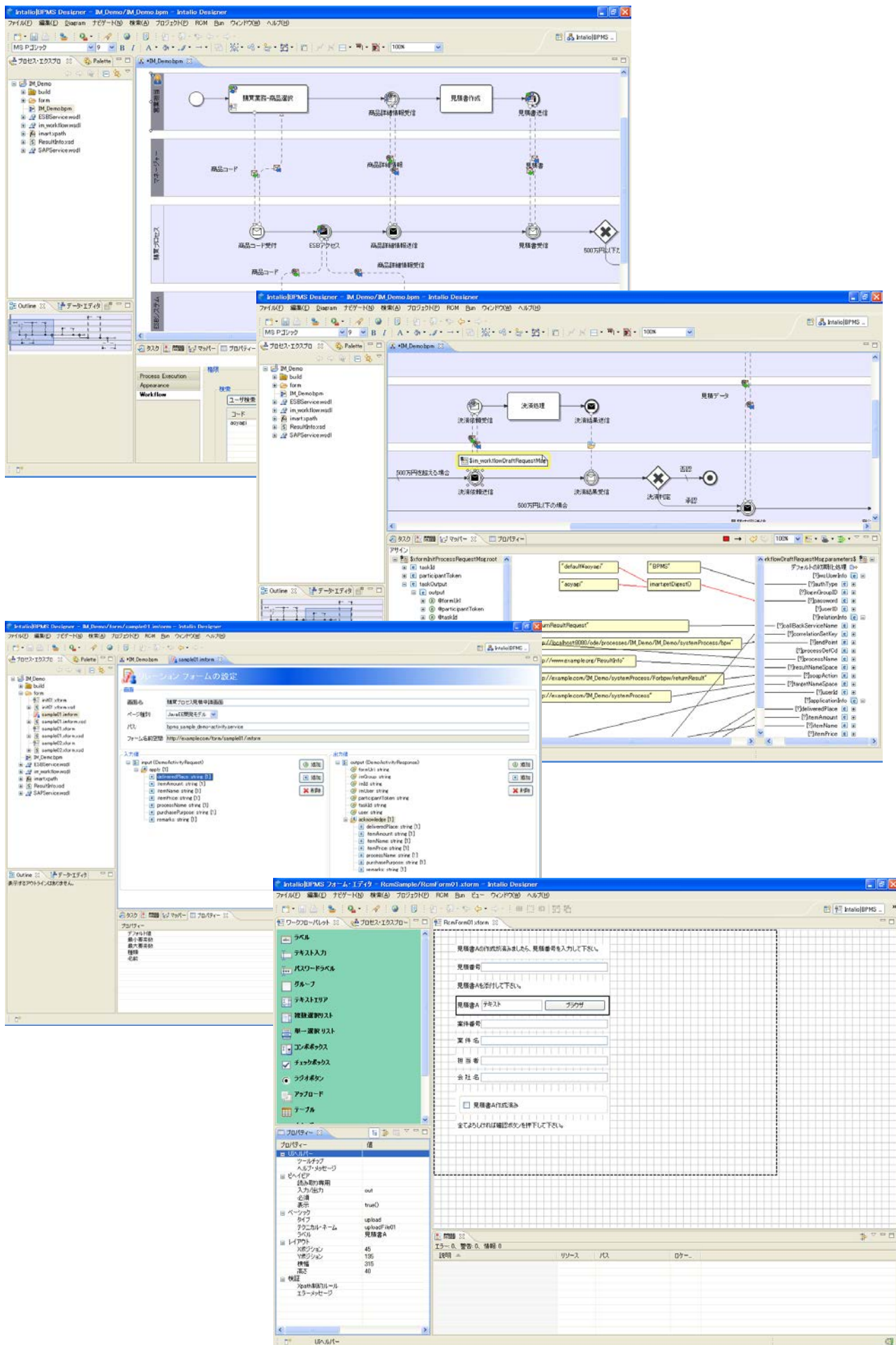
View JPEG document
View PNG document
View PDF document

Tasks

receive-activity-line-445:28

Status:
STARTED
Started:
Fri Aug 15

Page.42



9.7 サンプルプログラム (ショッピングカート[maskat])

The screenshot displays two windows of the 'intra-mart' web application, demonstrating the shopping cart functionality.

Top Window: 商品一覧 (Product List)

Navigation: HOME, MENU ON/OFF, HELP, 円山益男, LOG OUT

Left Sidebar (Sample Programs):

- ユーザ設定
- ワークフロー
- サンプル
 - スクリプト開発モデル
 - ショッピングカート
 - ショッピングカート[maskat]
 - グラフ
 - ファイル操作
 - メール送信
 - JavaEE開発モデル
 - ショッピングカート
 - ショッピングカート[maskat]
 - グラフ
 - ファイル操作
 - メール送信
 - FormatCreator
 - マスタメンテナンス
 - 申請書メンテナンス
 - ワークフロー連携
 - 申請書CSV出力
 - 申請書再利用
 - イベントナビゲータ

Main Content:

商品一覧 (1-5 (total:5))

商品ID	商品名
0001	いちご
0002	ぶどう
0003	みかん
0004	メロン
0005	りんご

商品詳細 (0001)

商品ID: 0001
商品名: いちご
価格: 100

ボタン: カートの中身を見る, 注文履歴, カートへ追加する

Bottom Window: カートの中身 (Cart Contents)

Navigation: HOME, MENU ON/OFF, HELP, 円山益男, LOG OUT

Left Sidebar (Same as Top Window)

Main Content:

カートの中身 (1-3)

商品ID	商品名	数量
0001	いちご	2
0003	みかん	1
0005	りんご	1

お届け指定日: 2008年07月07日

2008年 July

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

ボタン: 戻る, 取消

10 変更履歴

変更年月日	変更内容
2008/07/07	初版
2008/08/22	<p>第 2 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「エンタープライズ for BPM」に対応しました。それに伴い「エンタープライズ for BPM」の記述が全体に追加されています。 ● 「2.1 基本機能 (4)」誤字を訂正しました。 ● 「2.5 FormatCreator (3)」誤字を訂正しました。 ● 「2.7 その他 (6)」説明を追加しました。 ● 「6.5 データベース (10)」誤記を訂正しました。 ● 「6.7 スクリプト開発モデル (2)」を追加しました。 ● 「6.11 ポータル (11)」を追加しました。 ● 「6.19 その他 (3)」記述漏れを追加しました。 ● 「6.19 その他 (10) (11)」を追加しました。 ● 「7 これまでに判明している問題 (1) (2)」を削除しました。 ● 「7 これまでに判明している問題 (1)」を新たに追加しました。
2008/09/30	<p>第 3 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「6.19 その他 (12)」を追加しました。 ● 「7 これまでに判明している問題 (3)」を削除しました。
2009/02/27	<p>第 4 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「2.1 基本機能 (4)」を修正しました。 ● 「2.2 環境 (4)」誤字を訂正しました。 ● 「6.1 共通 (23)」を追加しました。 ● 「6.5 データベース (3)」を追加しました。 ● 「6.5 データベース (8)」を追加しました。 ● 「6.14 ViewCreator / TableMaintenance (4)」を追加しました。 ● 「6.19 その他 (13)」を追加しました。
2009/06/30	<p>第 5 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「5.2.5 Web Server Connector (WebPlatform(Resin)のみ)」から、『HP-UNIX』のサポート環境が廃止されました。 ● 「5.3 クライアント要件」に、『Microsoft Internet Explorer 8』が追加されました。 ● 「6.8 マスカット (4)」を追加しました。 ● 「6.11 ポータル (12)」を追加しました。 ● 「6.12 ワークフローモジュール (10) (11)」を追加しました。
2009/10/30	<p>第 6 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以下の制限事項が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.2 環境 - (17)、(18)

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.3 WebPlatform - (5) ➤ 6.13 FormatCreator - (12) ● 以下の制限事項が廃止されました。 ➤ 6.3 WebPlatform - (4)
2010/08/27	<p>第7版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クライアント OS に Windows7 を追加しました。
2010/11/30	<p>第8版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「8 著作権および特記事項」を変更しました。 ● 「7 これまでに判明している問題」を追加し、各項において、IBM 社製の Java-VM および AIX の問題を記述し、推奨しないに変更しました。 ● 「6 制限事項」の「AppFramework」の項目に記載していた、IBM 社製 JavaVM と Oracle 社製 JavaVM での制限事項を「環境」の 19,20 に移動しました。 ● 以下の制限事項が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.2 環境 - (21)(22) ➤ 6.3 WebPlatform - (6) ➤ 6.7 スクリプト開発モデル - (3)、(4) ➤ 6.9 ブラウザ - (17) ➤ 6.11 ポータル - (13) ➤ 6.14 ViewCreator / TableMaintenance - (5) ● Maskat 2.2.0 に対応しました。 ● 「5.1.1WebPlatform/AppFramework(BPM Serverを除く)」の OS に Windows7 を追加しました。
2011/06/30	<p>第9版</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以下の制限事項が解除されました。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.7 スクリプト開発モデル (4) ● 以下の制限事項が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.7 スクリプト開発モデル (5) ➤ 6.12 ワークフローモジュール (3)
2012/03/26	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の制限事項が修正されました。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.3 WebPlatform (1) ● 以下の制限事項が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.3 WebPlatform (7) ➤ 6.3 WebPlatform (8) ➤ 6.10 アプリケーション共通マスタ (6) ➤ 6.11 ポータル (14) ➤ 6.12 ワークフローモジュール (12) ➤ 6.12 ワークフローモジュール (13)
2013/10/18	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の制限事項が追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.6 JavaEE 開発モデル (4) ➤ 6.7 スクリプト開発モデル (6)

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 6.12 ワークフローモジュール (14)
2015/07/03	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の内容を修正しました <ul style="list-style-type: none"> ➤ 5.3 クライアント要件